

町田市スポーツ推進計画 19-28

(案)

町田市

はじめに

目次

第1章	スポーツ推進計画策定にあたって	1
1.	計画策定の主旨	1
2.	町田市スポーツ推進条例	1
3.	計画の位置づけ	2
4.	計画の期間	2
5.	国や都の動向	3
	(1) 国の動向	3
	(2) 東京都の動向	3
6.	スポーツとは	4
	(1) 本計画におけるスポーツ	4
	(2) する人、みる人、支える人の視点	4
	(3) スポーツに期待すること	5
第2章	町田市のスポーツに関する現状と課題	9
1.	町田市の現状	9
	(1) 人口	9
	(2) 町田市未来づくりプランにおける位置づけ	9
2.	町田市のスポーツ施策等に関する動向	10
	(1) 市民意識調査の結果	10
	(2) 市内のスポーツ施設	17
	(3) 町田市スポーツ施設整備構想懇談会	18
3.	町田市のスポーツ推進の課題	19
	(1) スポーツへの関心喚起が必要	19
	(2) スポーツを通じた健康づくりの取組が必要	19
	(3) スポーツを支える人材と組織の育成が必要	19
	(4) 市民の生活に身近なスポーツ環境の整備が必要	19
	(5) スポーツを活用したまちの活性化が必要	19
4.	課題対応の考え方	20
	(1) 市民のスポーツへの参加機会を拡充する	20
	(2) スポーツ実施につなげる人材、組織体制を拡充する	20
	(3) スポーツ環境を充実する	20
	(4) スポーツを活用して町田の魅力を向上する	21

第3章 スポーツ推進の施策..... 25

1. 計画の基本的な考え方.....	25
(1) スポーツ推進の基本理念.....	25
(2) 本計画が目指す将来の姿.....	25
(3) 4つの基本目標.....	26
(4) 本計画の指標（数値目標）.....	27
(5) 計画の体系.....	28
2. スポーツ推進施策の展開.....	29
(1) 施策展開の構成について.....	29
(2) 施策の連携について.....	29
(3) 各主体の役割.....	30

基本目標 01 スポーツへの参加機会の充実..... 32

基本施策（1）子どものスポーツ推進.....	32
基本施策（2）働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進.....	32
基本施策（3）高齢者のスポーツ推進.....	33
基本施策（4）障がい者のスポーツ推進.....	33

基本目標 02 スポーツに関わる人材と組織の充実..... 34

基本施策（1）スポーツを支える人材の育成.....	34
基本施策（2）スポーツを支える団体の支援・育成.....	35

基本目標 03 スポーツ環境の充実..... 36

基本施策（1）「する」スポーツ環境の充実.....	36
基本施策（2）「みる」スポーツ環境の充実.....	37

基本目標 04 スポーツを通じたまちづくり..... 38

基本施策（1）スポーツ情報の発信.....	38
基本施策（2）スポーツを通じたシティプロモーション.....	39

第4章 計画の推進にあたって..... 43

1. 計画の推進と進行管理.....	43
2. 計画推進のための財源の確保.....	44

資料編..... 47

1. 町田市スポーツ推進計画の策定体制.....	47
2. 町田市スポーツ推進審議会委員名簿.....	48
3. 町田市スポーツ推進計画 策定経過.....	49
4. 多摩26市等との比較.....	51
(1) スポーツ推進委員について.....	51
(2) 総合型地域スポーツクラブの状況.....	54
(3) スポーツ施設.....	55
(4) スポーツ施策と町会・自治会等のかかわり.....	57
(5) 多摩・島しょ地域のスポーツ活用型地域活性化の現状.....	59
(6) 近隣自治体のスポーツ実施率.....	67
5. 町田市スポーツ推進条例.....	68

第1章

スポーツ推進計画策定にあたって

スポーツ推進計画策定にあたって

1. 計画策定の主旨

町田市では、2009年度に策定したスポーツ振興計画を中間年で見直し、2013年度に町田市スポーツ推進計画を策定しました。計画に基づく事業実施により、市民が週1回以上スポーツを行う割合は、計画初年度の40.3%から、2017年度末時点で55.0%まで上昇しました。また、市民のスポーツ実施だけでなく、ホームタウンチームとの連携・協働が進むといった実績もあげてきました。

今回の計画の策定では、現行の町田市スポーツ推進計画が目標年次をむかえることによる事業等の評価と合わせて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会の開催も目前に控えたスポーツを取り巻く環境の急激な変化を好機と捉え、事業のあり方等を検討していくことが必要です。

「将来の姿」など大きな方向性は現行計画を踏襲しつつ、働き盛り世代のスポーツ実施率向上など、アンケート調査等から得られる課題を基に、今後10年の方向性を検討していきます。

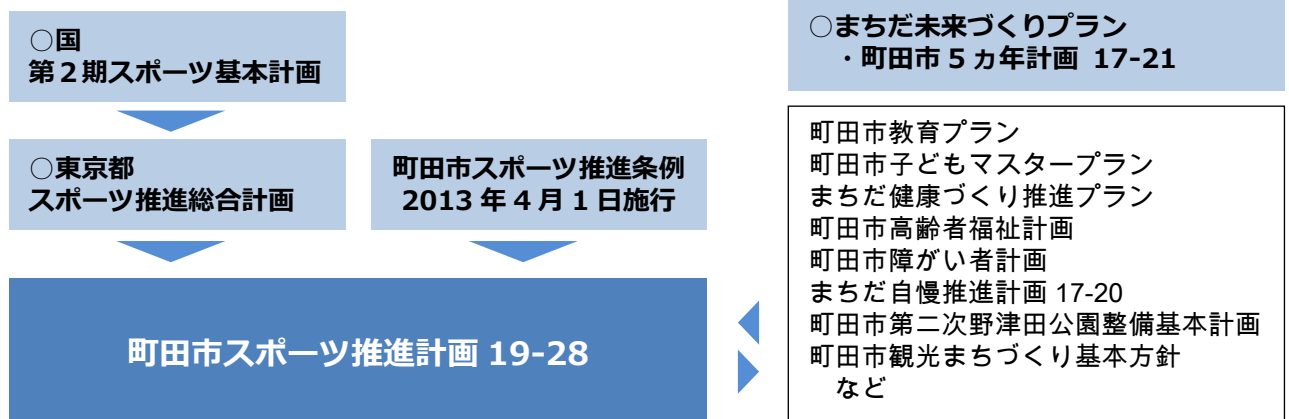
2. 町田市スポーツ推進条例

市では、スポーツ基本法の制定を受け、「町田市スポーツ推進条例」を2013年3月に制定しました。「町田市」としてのスポーツ推進に対する基本理念と市（行政）、市民等、スポーツ関連団体、ホームタウンチーム、それぞれの役割と4者の連携協力ならびにスポーツ推進計画の策定を規定、スポーツ基本法第31条に基づき、「町田市スポーツ推進審議会」を設置することとしています。

3 . 計画の位置づけ

本計画は、町田市の中・長期計画である「まちだ未来づくりプラン」及び「町田市5ヵ年計画」をはじめとした関連する個別計画との連携・調整を図りながら、各計画に共通する今後の施策の方向性などを明らかにするスポーツに関する基本的な計画として位置づけます。

2020年に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会を契機に市民のスポーツを盛り上げていけるよう、本計画で施策の方向性を示すとともに、各施策のメインとなる事業については、主な事業として記載します。



4 . 計画の期間

本計画は2019年度から2028年度の10ヵ年を計画期間とします。



5. 国や都の動向

(1) 国の動向

2011年に施行されたスポーツ基本法をはじめ、2012年のスポーツ基本計画の策定、2015年のスポーツ庁の設置、2016年のスポーツ産業の活性化を推進するスポーツ未来開拓会議の発足、2017年の第2期スポーツ基本計画の策定と、スポーツを取り巻く状況は近年、変化してきました。

また、2019年のラグビーワールドカップ2019™の開催が目前に迫り、2020年には第32回オリンピック競技大会(2020/東京)及び東京2020パラリンピック競技大会が開催されます。今後日本国内で開催される世界的なスポーツ大会を契機にスポーツの気運の盛り上がり期待されます。



(2) 東京都の動向

東京都は「東京都スポーツ推進計画(2013年3月策定)」及び「東京都障害者スポーツ振興計画(2012年3月策定)」を見直し、スポーツを通じて東京の未来を創造していくための計画として、2018年3月に「東京都スポーツ推進総合計画」を策定しました。

基本理念 「スポーツの力で東京の未来を創る」

都民のスポーツ実施率 70%を達成し、
誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、
スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」を実現します。

計画期間: 平成30(2018)年度～平成36(2024)年度	達成目標			政策目標						
	現状	2020年	2024年度	「する」スポーツ		「みる」スポーツ		「変える」スポーツ		
01 スポーツを通じた健康長寿の達成 <small>都民の誰もが、気軽にスポーツに関わることによって、心身の健康が維持・増進し、いきいきと生活しています。</small>	1年間にスポーツを実施しなかった都民(18歳以上)の割合	15.0%	7.5%	7.5%を維持	01 スポーツをすることへの障壁の解消	06 スポーツをみることの魅力増進	08 スポーツを支える人材の育成	02	07	09
	スポーツが「楽しい」「やみ難い」と回答する中学2年生の割合	男が11.8% 女が21.8%	-	男子 5% 女子 10%	03	04	05	10	11	12
02 スポーツを通じた共生社会の実現 <small>障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、全ての人が行きやすくスポーツを楽しみ、互いを助け・尊重しながら生活しています。</small>	1年間にスポーツを支える活動 ^{※1} を行った都民(18歳以上)の割合	13.1%	20%	20%を維持	06 成長段階にある児童・生徒の体力向上	07 競技力向上の取組を通じたスポーツ実施の促進	08 障害のある都民(18歳以上)のスポーツ実施率	13	14	15
	障害のある都民(18歳以上)のスポーツ実施率	19.2% (※2)	-	40% ^{※3}	11 誰もが楽しめるスポーツへの環境整備	16 障害者スポーツの更なる魅力増進	18 多様なスポーツの振興に向けた人材の育成	12 20～30歳代女性(都民)のスポーツ実施率	17	19
03 スポーツを通じた地域・経済の活性化 <small>都民が様々なスポーツを日常的に楽しむとともに、企業・地域団体等もスポーツの楽しさを実感できるサービス等を提供し、地域や経済が活性化しています。</small>	20～30歳代女性(都民)のスポーツ実施率	42.0%	50%	55%	13 地元・子供のスポーツ振興	14 高齢者のスポーツ振興	15 性別に関わらないスポーツ振興	20	21	22
	60歳以上の都民のスポーツ実施率	65.5%	75%	75%を維持	16 誰もが気軽に楽しめるスポーツの振興	21 誰もが気軽に楽しめるスポーツの振興	22 誰もが気軽に楽しめるスポーツの振興	23	24	25
1年間にスポーツを直接体験した都民(18歳以上)の割合	39.3%	50%	50%を維持	21 スポーツクラスターを核とした地域の活性化	25 スポーツ振興の能力強化	28 スポーツに関する技術開発	26	27	29	
東京2020大会に出場する都民が奨励・育成・強化したアスリート数	-	100人 190人 ^{※4}	25人 (成長率を踏まえ見直し)	22 官民連携によるスポーツ振興の推進	26 アスリートの活躍を通じたスポーツ振興の推進	29 地域や経済の活性化に寄与した団体等の振興	27	30	31	
都内のスポーツ市場規模(スポーツGDP)	0.57兆円	1.04兆円	1.46兆円	23 地域におけるスポーツ振興の推進	28 スポーツに関する技術開発	30	31	32	33	

6 . スポーツとは

(1) 本計画におけるスポーツ

スポーツには、喜びや達成感といった精神的充足や、多くの人に感動を与える力があります。また、スポーツを継続的に実施することは健康の維持・増進にもつながり、共にプレーした仲間とのチームワークやフェアプレーの精神を育みます。更に、実際にスポーツを観戦したり、地元チームを応援したりすることは、まちの賑わいを創出し、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成します。

スポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」としています。

本計画では、これらの考えに基づき、身体を動かし、楽しむことを原点として、活動を広く捉えていきます。

(2) する人、みる人、支える人の視点

「する」だけでなく、「みる」「支える」を含めた3つの視点をもとにスポーツを推進していきます。前述の「身体を動かし、楽しむことを原点」として、身体を動かし実際にスポーツを「する人」、スポーツの観戦を通じてスポーツに親しむ「みる人」、スポーツの指導やボランティア等を行い「支える人」それぞれの立場から市民のスポーツを推進していきます。

「する人」 実際にスポーツをする人

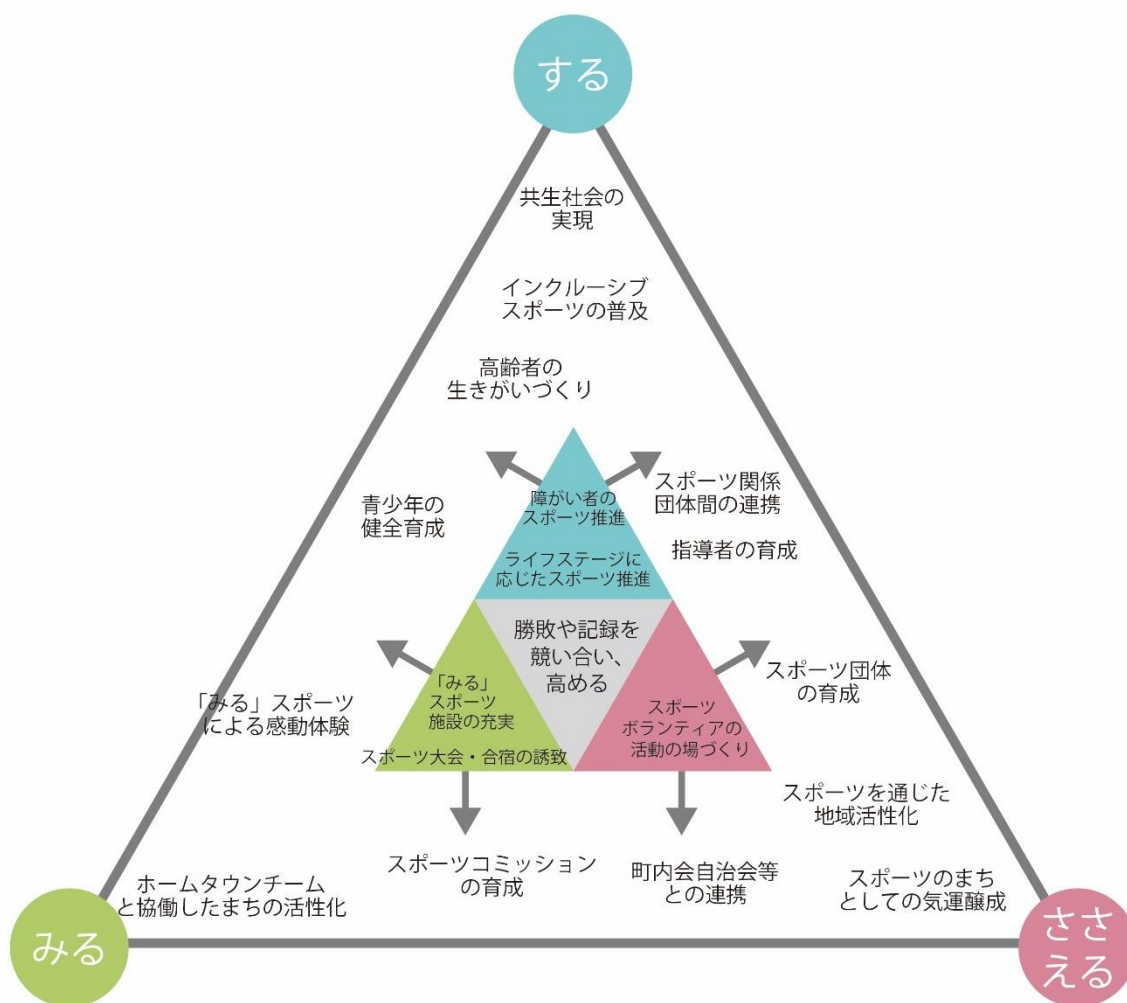
「みる人」 トップレベルの競技や身近な場所で開催されるスポーツ大会をみる人

「支える人」 スポーツ指導者やスポーツボランティア等の支える人

(3) スポーツに期待すること

本計画ではスポーツを、身体を動かし、楽しむことを原点として、活動を広く捉えています。より多くの市民がスポーツに取り組むためには、勝敗や記録を競い合うだけでなく、性別や年齢、障がいの有無を問わず、市民のだれもがスポーツを楽しむことが重要です。

スポーツを楽しむ人が増えていくことで、様々な社会的効果に波及していくことが期待されます。する・みる・支える視点から、以下のようにスポーツに期待されることを整理しました。



スポーツへの期待

第2章

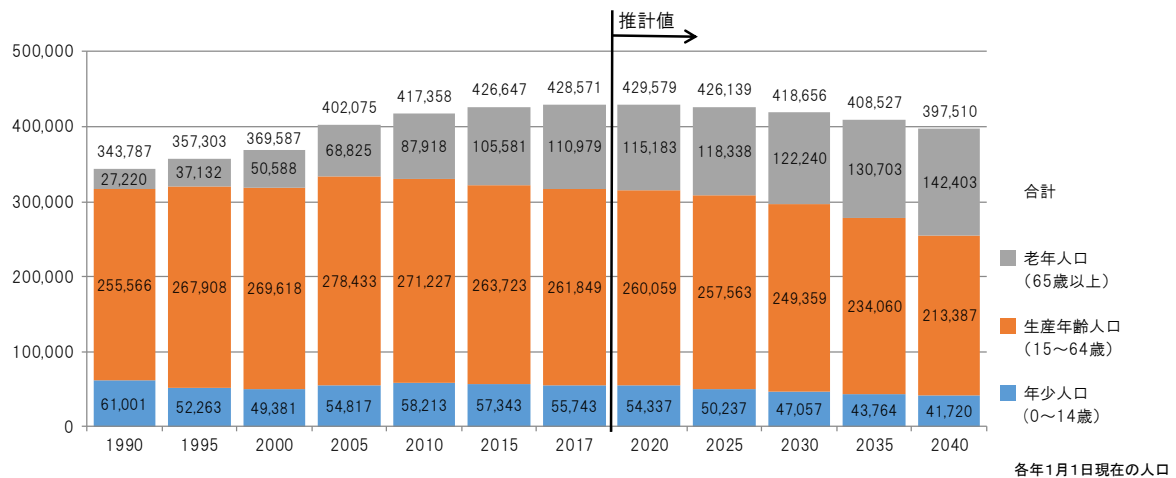
町田市のスポーツに関する現状と課題

町田市のスポーツに関する現状と課題

1. 町田市の現状

(1) 人口

町田市の人口は、2017年に42万8571人となっており、将来人口推計によると、2020年にピークをむかえ、その後緩やかに減少し、2040年には39万7510人になると見込まれています。生産年齢人口（15歳～64歳）は減少する一方で、老年人口（65歳以上）は増加することが見込まれています。



出典：町田市 HP より作成

(2) 町田市未来づくりプランにおける位置づけ

将来の町田市のあるべき姿を見据え、まちづくりの方向性を示す市の基本計画「まちだ未来づくりプラン」において、スポーツの推進は「基本目標Ⅲ 賑わいのあるまちをつくる」に位置づけられ、様々な世代がスポーツを核に活躍し、交流できる場づくりの取組やまちの魅力を発掘、創造し発信していく取組を進めていくこととされています。

町田市のまちづくり基本目標

- 基本目標Ⅰ 将来を担う人が育つまちをつくる
- 基本目標Ⅱ 安心して生活できるまちをつくる
- 基本目標Ⅲ 賑わいのあるまちをつくる
- 基本目標Ⅳ 暮らしやすいまちをつくる

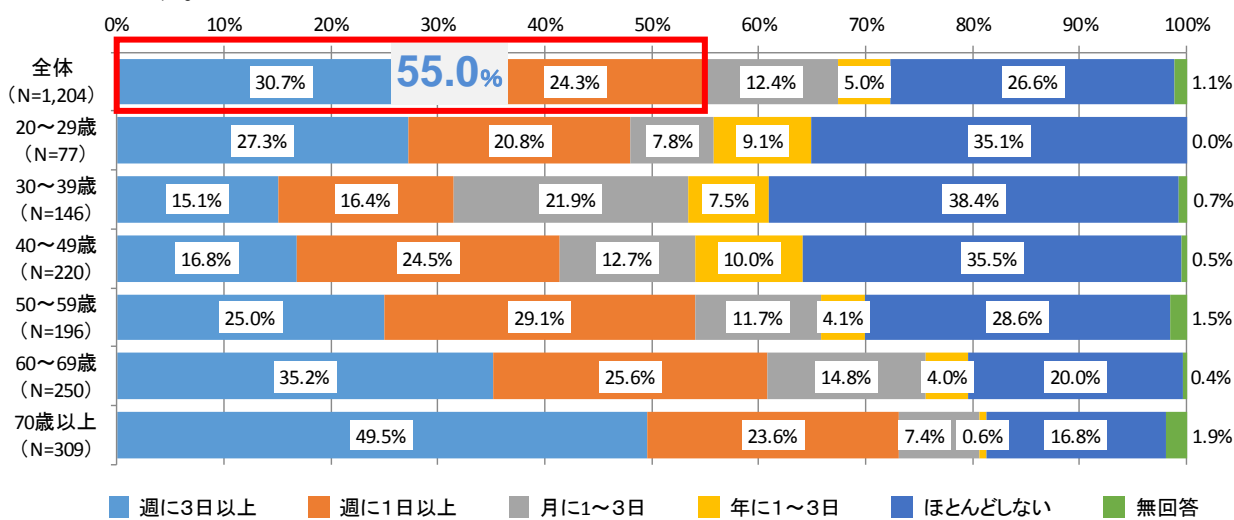
出典：町田市5ヵ年計画 17-21

2. 町田市のスポーツ施策等に関する動向

(1) 市民意識調査の結果

① 市民 スポーツの実施頻度

- ▶週に1日以上スポーツを実施する割合は、市民全体では55.0%となっています。
- ▶世代別にみると30～39歳が週に1日以上スポーツを実施する割合が最も低くなっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート

【参考】東京都の調査の結果

- ・週に1日以上実施:56.3%
- ・1年間にスポーツを実施しなかった都民(18歳以上)の割合:15.0%

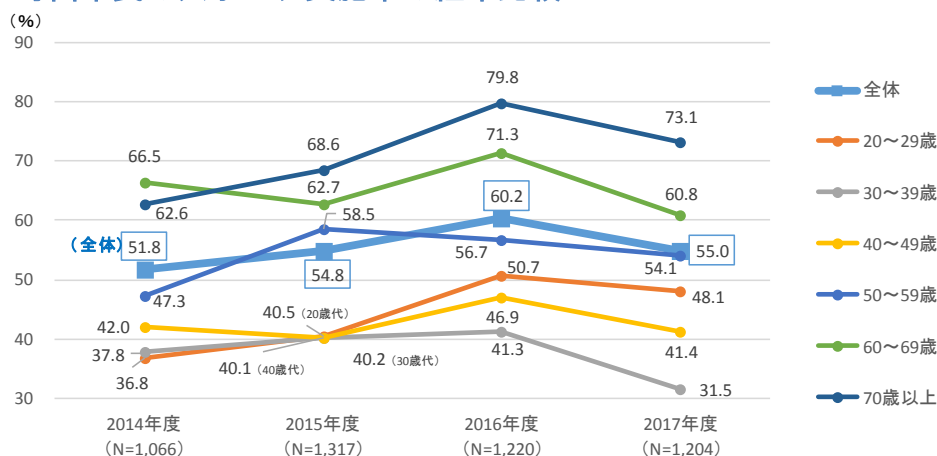
出典「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査(平成29年1月)」

【参考】国の調査の結果

- ・週に1日以上実施:42.7%

出典「スポーツの実施状況等に関する世論調査(スポーツ庁、平成28年11月調査)」

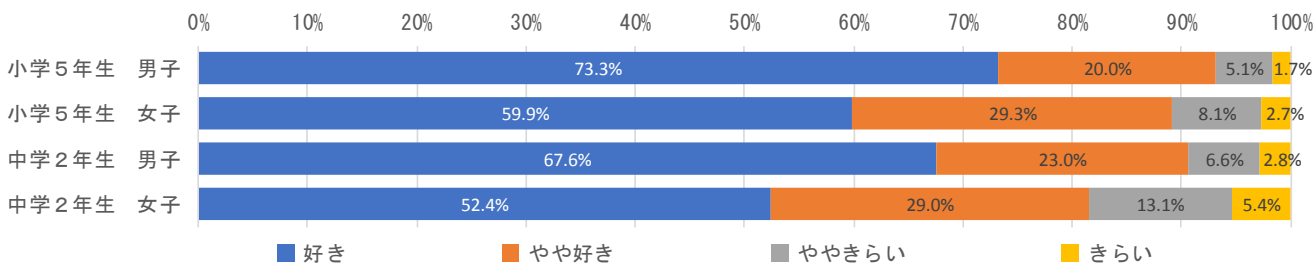
【参考】町田市民のスポーツ実施率の経年比較



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート(2014年度～2017年度)

② 小中学生 運動やスポーツの好き嫌い

▶小中学生の運動やスポーツの好き嫌いをみると、年齢があがるにつれて「好き」の割合が減少しています。

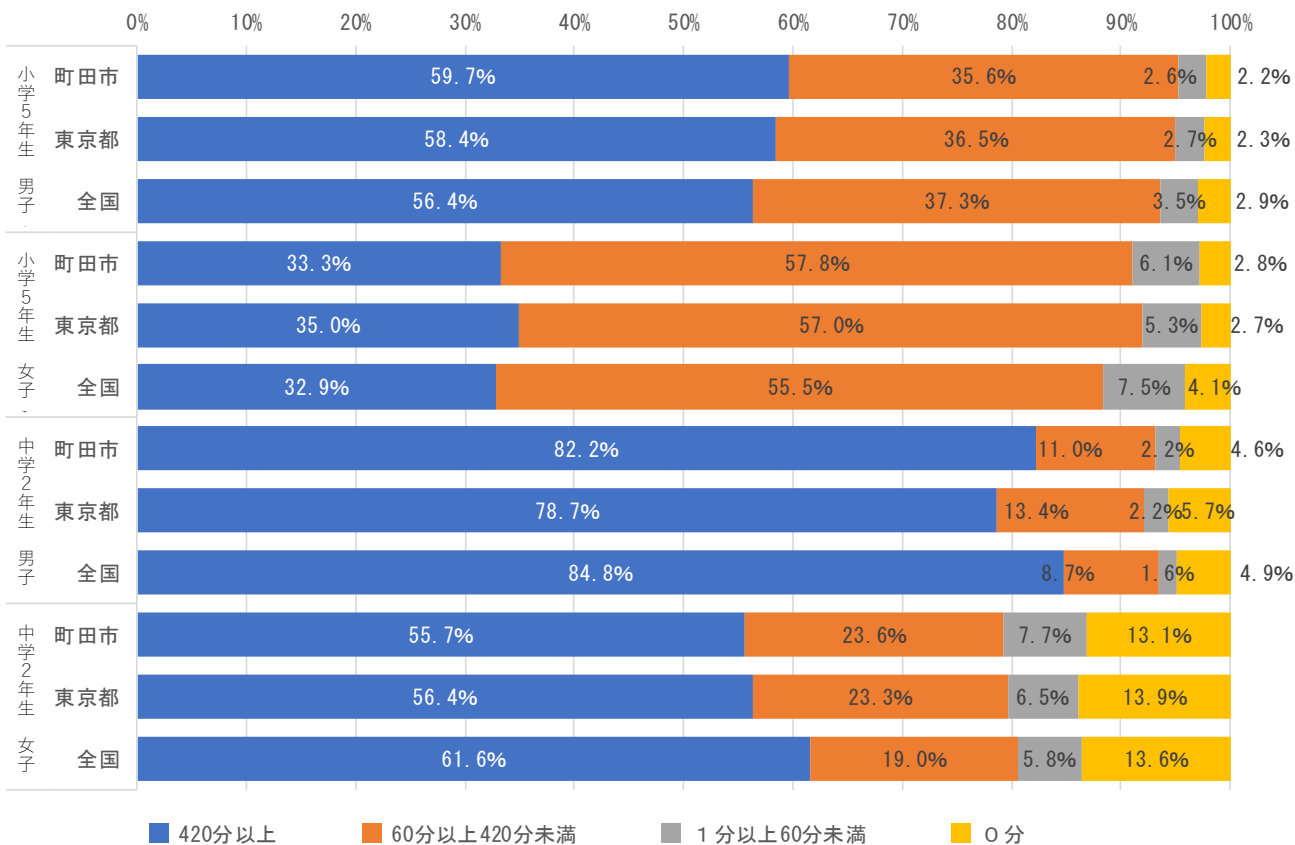


出典：町田市 体力向上推進プラン

③ 小中学生 1週間の総運動時間

▶小学校第5学年男子は、1週間の総運動時が420分以上である児童の割合が、東京都や全国平均を上回っています。

▶中学校第2学年女子は、1週間の総運動時が420分以上である生徒の割合が、東京都や全国平均を下回っており、約7.6人に1人はまったく運動していないことが分かります。

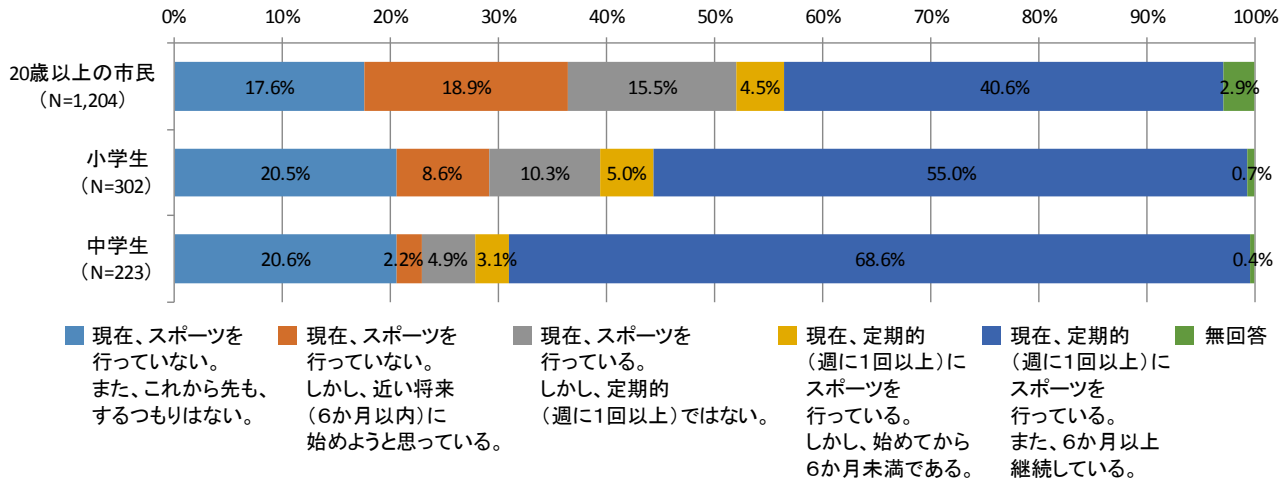


出典：町田市 体力向上推進プラン

④ 市民・小中学生

スポーツの実施状況や考え方

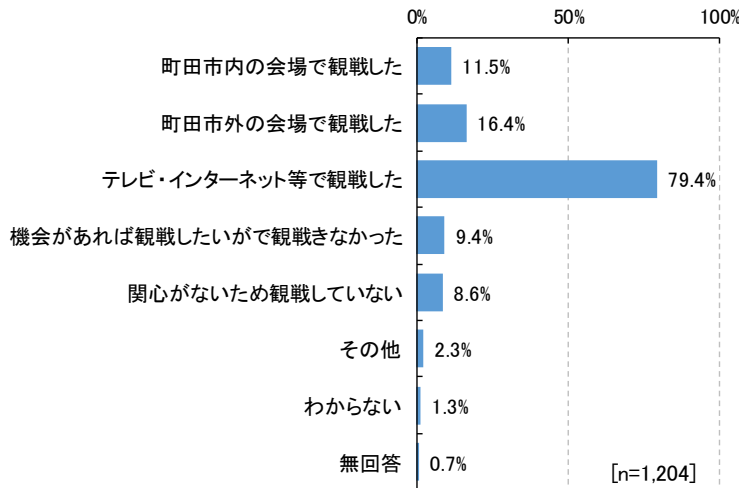
- ▶スポーツを行っておらず、今後もするつもりがない人は、市民で17.6%、小学生で20.5%、中学生で20.6%となっています。
- ▶中学生では定期的にスポーツを行っており、これまでも継続している人が7割近くとなっています。



出典：（市民）町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート、
（小学生、中学生）スポーツについてのアンケート

⑤ 市民 スポーツ観戦の状況

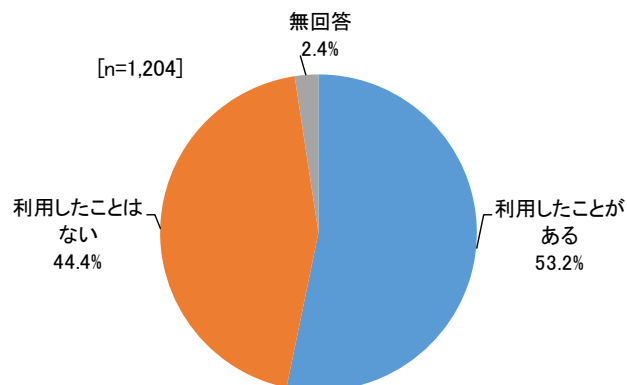
- ▶ テレビ・インターネット等でスポーツを観戦した人は79.4%となっています。
- ▶ 町田市内の会場で観戦した人は11.5%となっています。
- ▶ 関心がなく、スポーツを観戦していない人は8.6%となっています。



【参考】東京都の調査結果
 ・1年間にスポーツを直接観戦した都民(18歳以上)の割合:**39.3%**

⑥ 市民 市のスポーツ施設の利用経験

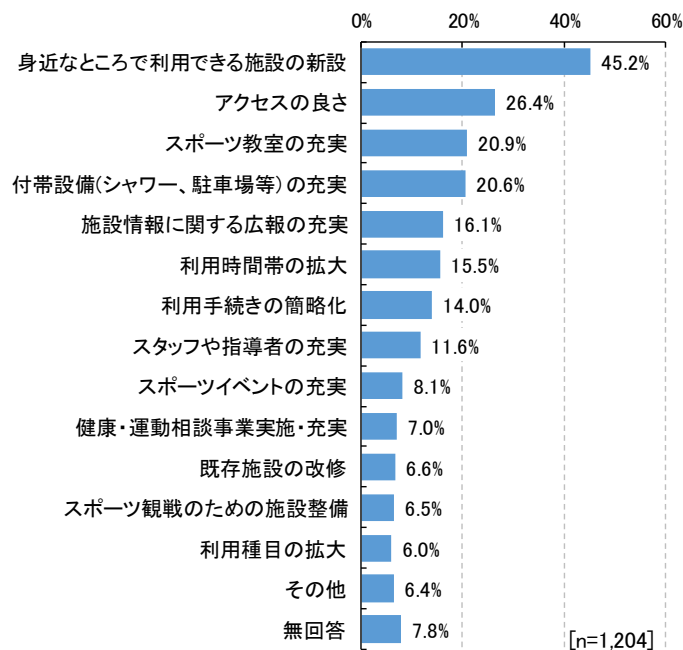
- ▶ 市のスポーツ施設を利用したことがある人は53.2%となっています。
- ▶ 市のスポーツ施設を利用したことがない人は44.4%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート

⑦ 市民 施設に求めること

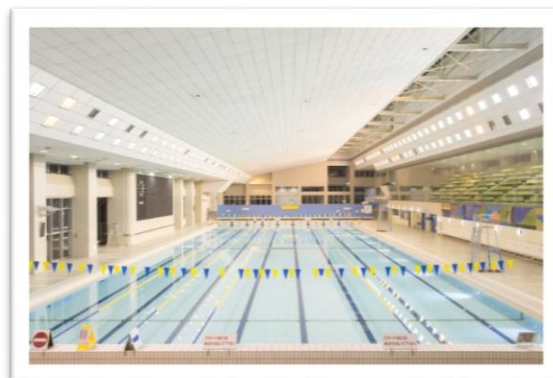
- ▶ 身近なところで利用できる施設の新設、アクセスの良さを求める回答が多くなっています。
- ▶ 次いで、スポーツ教室の充実、付帯設備の充実を求める回答が多くなっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート



陸上競技場



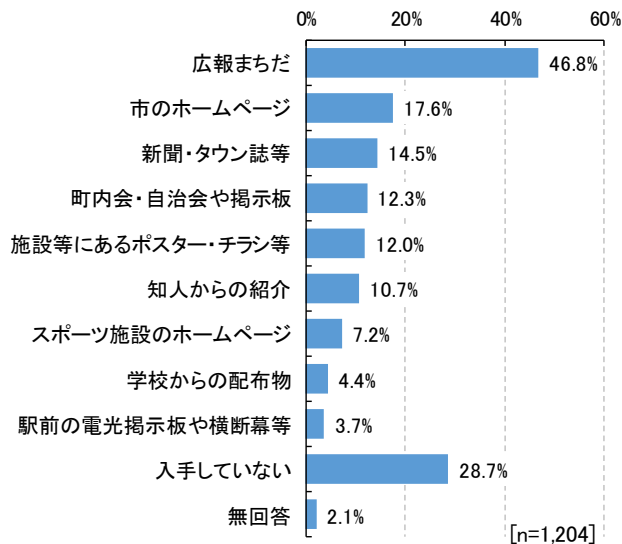
室内プール(50mプール)



総合体育館

⑧ 市民 スポーツ情報の活用

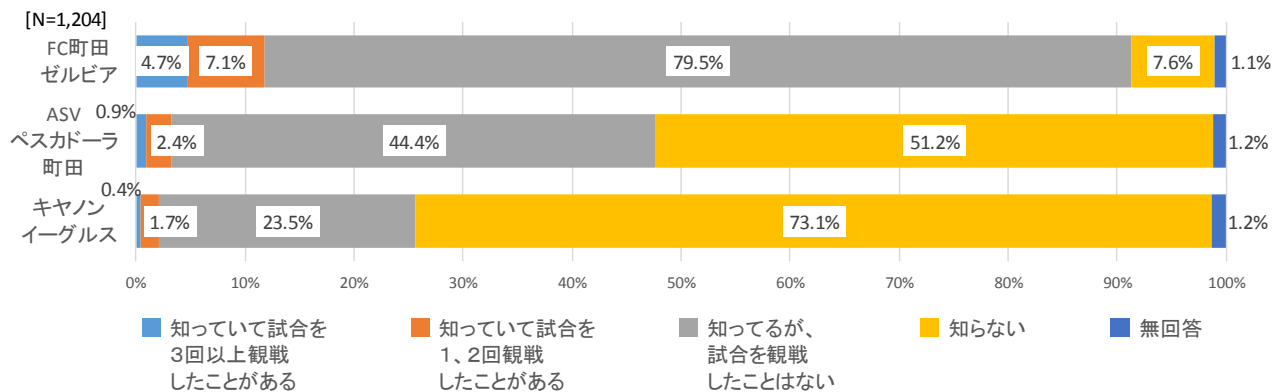
- ▶ 広報まちだを通して情報を入手している人が最も多く46.8%となっています。
- ▶ 一方で、情報を入手していない人が28.7%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート

⑨ 市民 ホームタウンチームの認知度

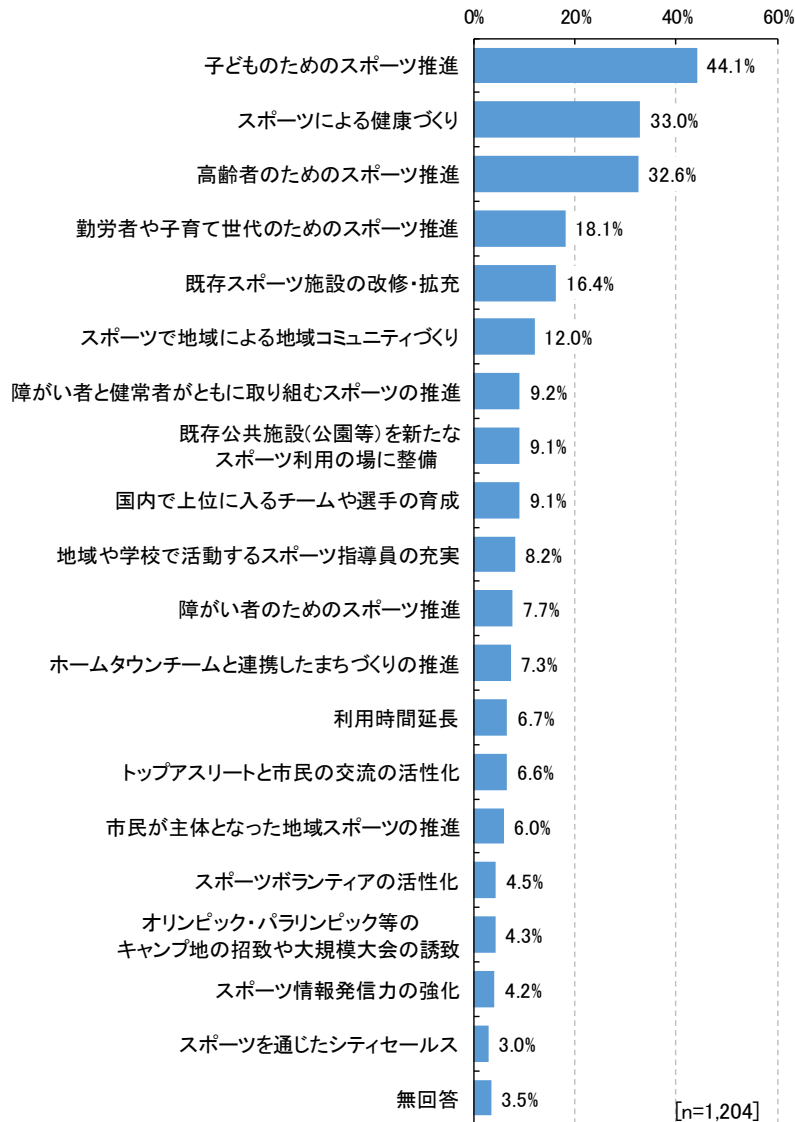
- ▶ チームの認知度（「知らない」「無回答」以外の回答の合計）は、「FC町田ゼルビア」が91.3%、「ASV ペスカドーラ町田」が47.7%、「キャノンイーグルス」が25.6%となっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート



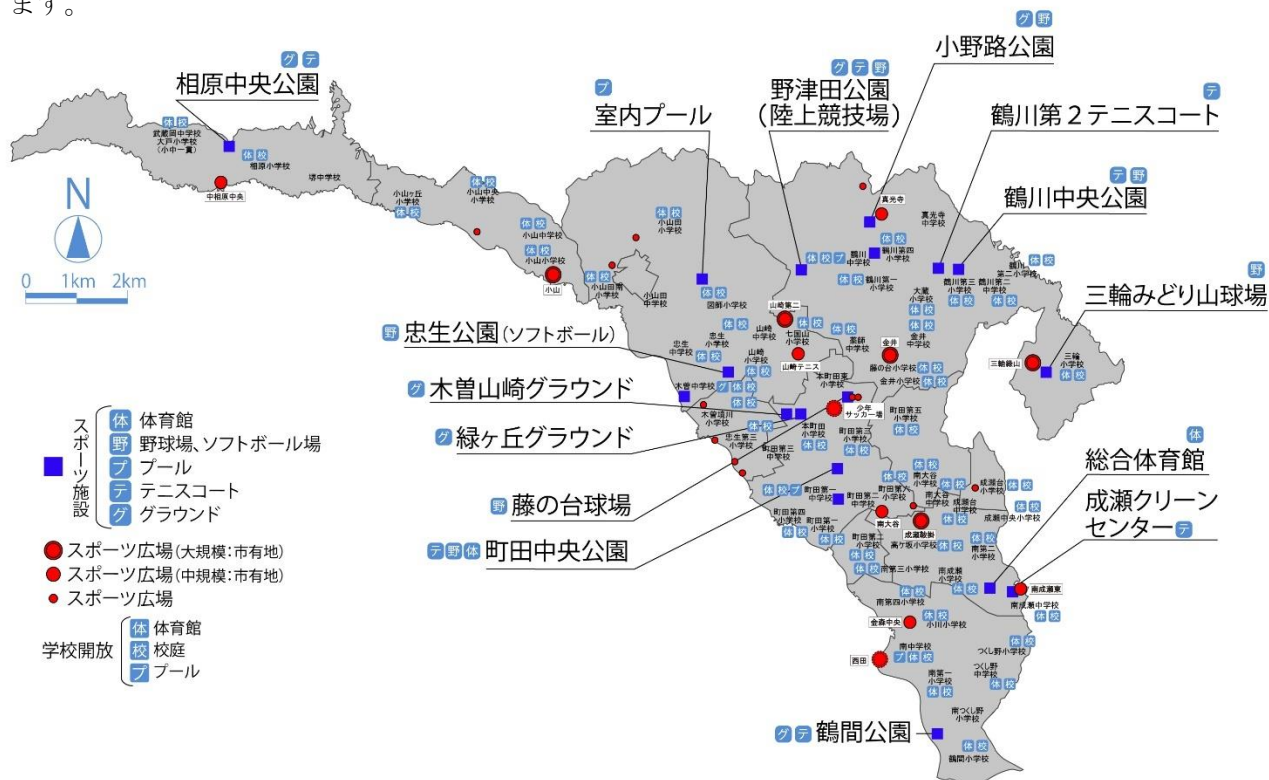
- ▶ 「子どものためのスポーツ推進」が44.1%と最も多くなっています。
- ▶ 「子どものためのスポーツ推進」「スポーツによる健康づくり」「高齢者のためのスポーツ推進」という回答が30%以上と、多くなっています。



出典：町田市スポーツに関する市民意識調査アンケート

(2) 市内のスポーツ施設

市民の身近な場所でのスポーツ環境の充実を目指し、市内各所にスポーツ施設を整備しています。



「東京都における公立スポーツ施設 平成 29 年度」によると、町田市のスポーツの施設の合計数は 23 施設となっており、多摩 26 市中 3 番目に多くなっています。

1 施設あたりの市民の数は 18,655 人となっており、人口に対する施設の数は多摩 26 市中 23 番目となっています。

市の人口とスポーツ施設の数（多摩 26 市と比較）

①	②	③	④	⑤	⑥
自治体名	人口	施設数	③の順位 (26 市中)	1 施設あたりの市民の数	⑤の順位 (26 市中)
府中市	259, 515	50	1 位	5,190.3	3 位
立川市	182, 715	24	2 位	7,613.1	8 位
町田市	429, 070	23	3 位	18,655.2	23 位
多摩市	148, 815	21	4 位	7,086.4	7 位
八王子市	563, 228	20	5 位	28,161.4	25 位

出典：「東京都における公立スポーツ施設 平成 29 年度」より作成

(3) 町田市スポーツ施設整備構想懇談会

2017年度に「地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること」や「みるスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること」について、スポーツ関係者等の意見を聴取するために、「町田市スポーツ施設整備構想懇談会」が設置されました。

懇談会での意見を取りまとめ、2018年3月に「町田市スポーツ施設整備構想 提言書」を町田市長に提出しています。

提言の基本的な方向性(総論)

① 「見るスポーツ」を楽しめる場づくりとスポーツを通じたにぎわいの創出

町田市内のスポーツ施設は「見る」視点での環境整備について十分な検討が行われてこなかった。

今後は、これまで以上に多くの市民がスポーツ観戦やスポーツイベントを楽しむことで施設内外のにぎわいを創出することを目指すとともに、新たな視点での課題の整理にも取り組み、「見る」スポーツを楽しめる場を創出していくことが望ましい。また、イベント等の実施にあたっては、予算の確保を企画段階から視野に入れて取り組むとともに、市民への情報の周知・PRに一層力をいれていくことが重要である。

② 「見るスポーツの場」と「するスポーツの場」のすみ分けを検討する

現在、「見るスポーツの場」と市民がスポーツ活動を行う「するスポーツの場」が混在している状況が見受けられる。特に体育館では施設の利用率が90%を超え飽和状態にあり、「見るスポーツ」と「するスポーツ」の混在も一因であることから、それらのすみ分けを行う方法を検討する必要がある。

③ ホームタウンチームにとっても魅力的な環境を整備する

町田市には市の貴重な資源といえる、国内のトップリーグに所属するクラブが3つあり、ホームタウンチームとしても活動している。

今後もホームタウンチームが活動していけるような魅力的な施設・環境を整えとともに、チームが町田市民の誇りとなり、子どもたちの夢やあこがれとなるよう市がサポートする環境を一層充実していくことが望ましい。

④ 町田市の社会課題を総合的に解決していく拠点としての整備方針を検討する

「見る」スポーツ環境の整備にあたっては、施設周辺の住民の理解をはじめ、騒音問題や交通渋滞などまちづくりに関わる様々な社会課題に直面することが考えられる。

今後は、スポーツの魅力を活かすとともに、市内のスポーツ施設を町田市の様々な社会課題（健康づくり、共生社会の実現、産業振興等も含む）を「総合的に解決していく拠点」とするとともに、バリアフリー化やユニバーサルデザインの視点もふまえ、整備方針を検討していくことが望ましい。また、町田市内に波及していく影響を的確に把握する体制の整備も検討する。

⑤ 町田市のスポーツ施設それぞれの状況をふまえ、優先度の高い施設から整備の方針を検討していく

町田市の基本計画（「まちだ未来づくりプラン」）の後期実行計画である「5ヵ年計画 17-21」など、スポーツの環境整備にあたっては、市の事業等が進められている。

関連する市の計画期間等を基準として、短期的な視点と長期的な視点で状況を整理し、優先度の高い施設から整備の方針を検討していくことが望ましい。また、施設整備・運営にあたっては、行政だけでなく、民間資金の活用や広告等による収入なども視野に方針を検討する。

3. 町田市のスポーツ推進の課題

(1) スポーツへの関心喚起が必要

ライフステージに応じたスポーツ実施率向上の取組が必要

- ・スポーツ実施率は30歳代(31.5%)と40歳代(41.3%)で低い
- ・「現在はスポーツを行っていないが、6か月以内に始めようと思っている」市民は18.9%
- ・市が力を入れるべきこととして「子どものためのスポーツ推進」という回答が44.1%で最も多い

スポーツ観戦機会の拡充が必要

- ・スポーツを「市内で観戦した人」は11.5%
- ・「みるスポーツ」を楽しめる場づくりが必要

より多くの市民にスポーツ情報を周知することが必要

- ・スポーツについて「情報入手していない」市民は28.7%
- ・スポーツを市の魅力の一つとしてとらえ、情報発信を強化し、スポーツのまちというイメージの浸透を図る取組が必要

(2) スポーツを通じた健康づくりの取組が必要

- ・スポーツを「ほとんどしない」市民は26.6%
- ・市が力を入れるべきこととして「スポーツによる健康づくり」という回答が33.0%で2番目に多い
- ・健康のために意識的に身体活動量(生活+運動)・運動量を向上させる取組が必要

(3) スポーツを支える人材と組織の育成が必要

- ・多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ推進委員の数が少ない(26市中26位)
- ・スポーツを支える指導者やボランティアの育成とスポーツ関係団体の組織力の向上が求められている

(4) 市民の生活に身近なスポーツ環境の整備が必要

- ・市のスポーツ施設を「利用したことはない」市民は44.4%
- ・市のスポーツ施設に求めることとして「身近なところで利用できる施設の新設」という回答が45.2%で最も多い
- ・多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ施設の数が少ない(26市中23位)
- ・スポーツ広場は、地域住民と同様に、広く市民が利用できるようにする必要がある

(5) スポーツを活用したまちの活性化が必要

- ・スポーツ関係団体と連携した、スポーツを通じたまちの活性化・魅力向上やにぎわい創出が求められている
- ・ホームタウンチームの認知度に差がある
- ・ホームタウンチームにとっても魅力的な施設の整備が必要

スポーツ推進の課題

4 . 課題対応の考え方

(1) 市民のスポーツへの参加機会を拡充する

市民の状況に応じたスポーツの参加機会の拡充

子ども、成人、高齢者といったライフステージに応じたスポーツ機会とともに、勤労者、子育て期の保護者、障がいのある人など、個人の生活の状況に応じてスポーツに参加できる機会を充実していく。

スポーツの魅力を活かした取組の推進

スポーツをしたくてもしていない層に向けた、スポーツによる美容・健康へのアプローチやスポーツのもつ力による心の健康づくりにも取り組んでいく。

仲間づくりやいきがづくりなど、競技スポーツとは異なる視点で、「スポーツに関心のない市民」にスポーツの参加機会を提供する。

(2) スポーツ実施につなげる人材、組織体制を拡充する

多様な人材の育成

レクリエーションスポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツなど、多様なニーズに応じて適切な指導を行うことができる人材を育成する。

スポーツを支える市民の育成・支援に取り組む。

スポーツ団体の育成

市民が主体となった地域スポーツクラブの活性化を支援していく。

市民の多様なニーズに応じたプログラムの充実など、組織的に市民のスポーツ実施につなげる団体を支援していく。

(3) スポーツ環境を充実する

市民の身近なスポーツ環境を整備

大規模なスポーツ広場は公のスポーツ施設として整備し、公のスポーツ施設を増やす。

市民の「身近なスポーツをする場」として、中小規模のスポーツ広場や公園等の既存施設の利用方法を見直し、スポーツ利用拡大に取り組む。

学校等と連携した地域の活性化

市内の小中学校、大学等と連携し、校庭や体育館の開放、スポーツ教室の実施など、行政と地域が連携してスポーツの場づくりに取り組む。また、個人の環境の変化に関わらず身近にスポーツに親しめる環境づくりにも取り組む。

トップレベルのスポーツを観戦・体感できる機会の提供

町田市は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において自転車競技ロードレースのコースの一部となっている。この機会を活かし、トップレベルのスポーツを観戦・体感できる環境づくりに取り組む。

ホームタウンチームにとっても魅力的な施設整備を検討する。

(4) スポーツを活用して町田の魅力を向上する

スポーツ情報の発信力の強化

「する」「みる」「支える」それぞれの視点に立ち、市民スポーツとトップスポーツの総合的な情報発信に引き続き取り組む。

スポーツを活用したまちの魅力向上

町内会・自治会等と連携したスポーツイベントを通じ、オール町田の賑わいを創出する。

市民だけでなく、市外在住者も「町田がスポーツのまち」という印象を抱くように、スポーツ情報を市内外に発信していく。

ホームタウンチームと協働した市民の誇り、スポーツ気運の醸成

ホームタウンチームを支えるとともに、チームが市民の誇りとなるよう、気運醸成に取り組む。

第3章

スポーツ推進の施策

スポーツ推進の施策

1. 計画の基本的な考え方

(1) スポーツ推進の基本理念

「町田市スポーツ推進条例」に示す、町田市のスポーツ推進における基本理念は以下のとおりです。

- [1] スポーツ環境の整備及び魅力ある地域社会の形成
- [2] スポーツを通じた健康の保持及び増進に関する知識の向上
- [3] 市、市民等、ホームタウンチーム及びスポーツ関連団体による相互の信頼の下の連携、協力

(2) 本計画が目指す将来の姿

基本理念に基づき本計画が目指す将来の姿は、以下のとおりとします。

将来の姿 「スポーツで人とまちが一つになる」

市民誰もがスポーツを楽しむことができ、
スポーツを通じて様々な主体が連携して
まちの賑わいと魅力が生まれ、市民の愛着・誇りが高まります。

イラスト挿入予定

(3) 4つの基本目標

第2章で整理したスポーツ推進の課題を基に、将来の姿の実現に向けて4つの基本目標をかかげます。

基本目標1では、市民の「スポーツへの参加機会の充実」を掲げ、生活等の状況に応じていつでも、誰でもスポーツに参加できる機会を充実していきます。また、仲間づくりやいきがいきづくりなど、競技スポーツとは異なる視点で「スポーツに関心のない市民」にスポーツの参加機会も充実していきます。

基本目標2では、「スポーツに関わる人材と組織の充実」を掲げ、レクリエーションスポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツなど、多様なニーズに応じて適切な指導を行うことができる人材の育成に取り組んでいきます。また、市民の多様なニーズに応じたプログラムの充実など、組織的に市民のスポーツ実施につなげる団体の支援も充実していきます。

基本目標3では、「スポーツ環境の充実」を掲げ、市民が生活に身近な場所でスポーツに親しむことができるよう、「する」と「みる」視点からスポーツ環境の充実に取り組んでいきます。

基本目標4では、「スポーツを通じたまちづくり」を掲げ、スポーツの魅力を活用して地域の活性化、まちの魅力向上に取り組めます。ターゲットを明確化し、市民に適格にスポーツ情報を提供していくとともに、市内外にスポーツイベント等の情報を発信し、まちの魅力としてPRしていきます。

将来の姿「スポーツで人とまちが一つになる」



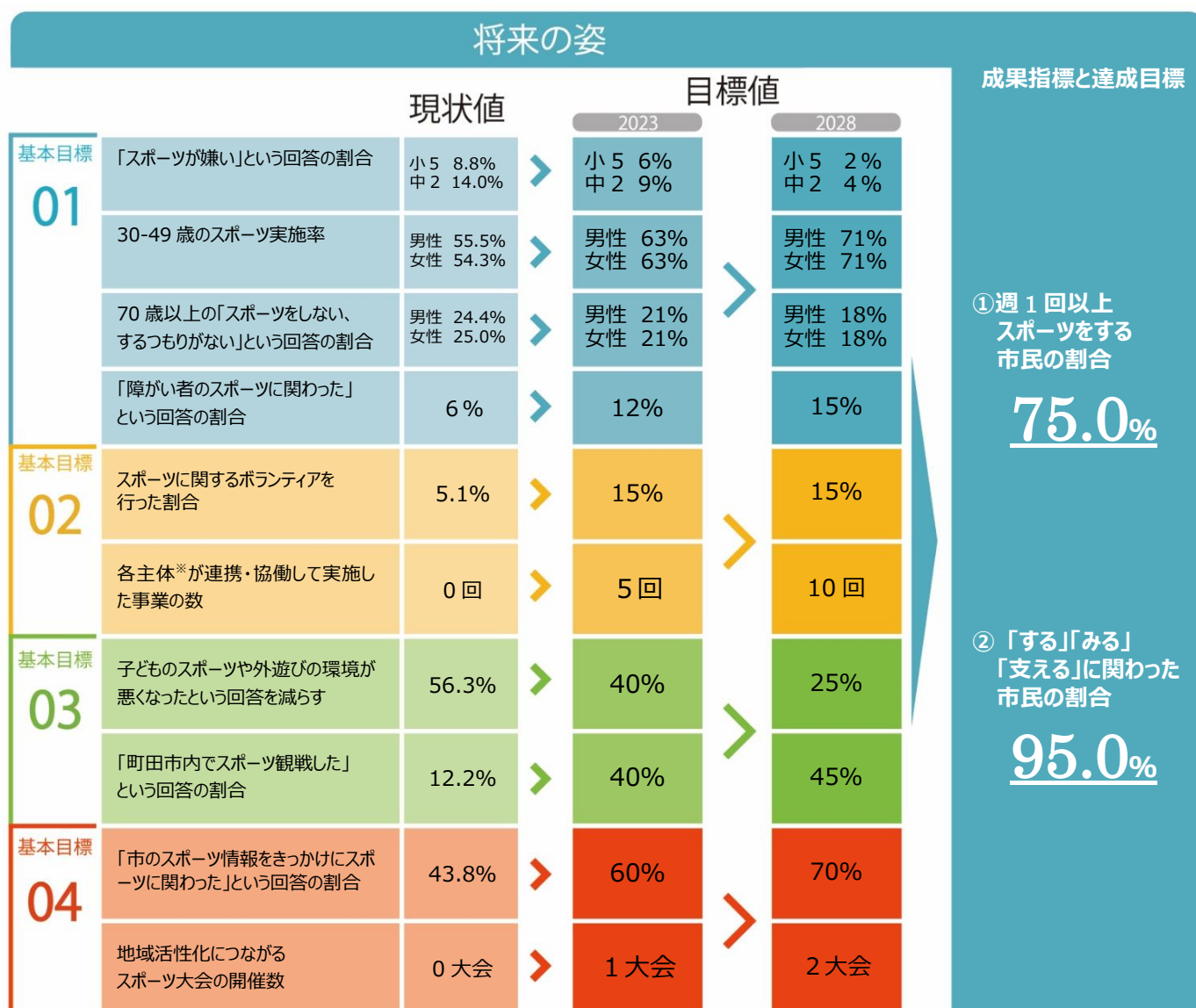
基本目標

(4) 本計画の指標(数値目標)

計画の達成状況を把握することを目的として“将来の姿”に対応した、計画全体に関わる指標と4つの基本目標に対応した個別の指標を設定します。

個別の指標は、具体的な取組の成果と計画の目標の関連性を示す数値目標等(アウトプット指標)を設定しています。数値での評価がむずかしい項目については、評価の考え方を整理し、施策・事業の実施により発生する効果・成果を表す指標(アウトカム指標)を設定しています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会を契機として、スポーツに関わる(する・みる・支える)市民を増やすとともに、開催後も市民のスポーツへの関心を継続していく視点で計画の指標を設定します。



※町田市でのスポーツ推進を担う主体と役割を P.30,31 で整理しています。

達成目標

(5) 計画の体系

各基本目標の達成を目指して基本的な方向性を示す基本施策を掲げます。

将来の姿 「スポーツで人とまちが一つになる」

基本目標 01 > スポーツへの参加機会の充実



基本施策 (1) 子どものスポーツ推進

基本施策 (2) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進

基本施策 (3) 高齢者のスポーツ推進

基本施策 (4) 障がい者のスポーツ推進

基本目標 02 > スポーツに関わる人材と組織の充実



基本施策 (1) スポーツを支える人材の育成

基本施策 (2) スポーツを支える団体の支援・育成

基本目標 03 > スポーツ環境の充実



基本施策 (1) 「する」スポーツ環境の充実

基本施策 (2) 「みる」スポーツ環境の充実

基本目標 04 > スポーツを通じたまちづくり



基本施策 (1) スポーツ情報の発信

基本施策 (2) スポーツを通じたシティプロモーション

2. スポーツ推進施策の展開

(1) 施策展開の構成について

基本目標の達成にむけて、以下の構成で施策を展開していきます。

① 基本目標

将来の姿の実現にむけて掲げる目標です。基本施策ごとに指標を設定し、進捗状況を把握・評価をしていきます。

② 基本施策

基本目標を実現していくための取組とその方向性を示すものです。

③ 推進施策

基本施策を具体的に推進していくための方向性を示し、また、個々の事業の目的となるものです。また、地域・社会の実情等に応じて、必要と判断された新たな事業は、推進施策が示す方向性に基づき本計画に位置づけ、実施していくものとします。

④ 主な事業

推進施策を目的として位置づけ、市のスポーツを推進していくための個別の事業となります。

(2) 施策の連携について

将来の姿の実現にむけた施策や事業は独立して行うものではなく、関連する分野や施策が横断的に関わり合い、スポーツ推進に携わる各主体が連携・協働することで多様化するスポーツ推進の課題を解決していくものとします。

(3) 各主体の役割

① 市

市は、計画の推進主体の中核として、各主体との連携および協力を支え、町田市スポーツ推進条例の基本理念および本計画の目指すべき将来像「スポーツで人とまちが一つになる」の実現に向け計画を遂行します。

② 町田市体育協会、体育協会加盟団体

市・体育協会加盟団体とビジョンを共有して市民のスポーツを推進していくことが期待されます。スポーツに関する情報発信や市民の誰もがスポーツに関わることのできるイベントの実施など、市民のスポーツ実施の場や機会提供が期待されます。

③ スポーツ推進委員

市のスポーツ推進の将来の姿の実現を目指し、市民の身近な立場で実技指導や事業の運営協力に取り組むとともに、市民やスポーツ団体のニーズを把握するなど、調整役・コーディネーターとして活動が期待されます。

④ 地域スポーツクラブ

多世代で多様な種目のスポーツを楽しめるスポーツ教室やイベントの開催を通して市民のスポーツ活動の拡充が期待されます。学校や地域との連携において中心的な役割となることが期待されます。

⑤ 指定管理者、スポーツ施設の管理・運営団体

市内のスポーツを支える団体や公共スポーツ施設などと連携し、市民がいつでもどこでも誰でも気軽に参加できるイベントの企画や充実したサービスを提供していくことが期待されます。

⑥ ホームタウンチーム

みるスポーツ人口の拡大、まちの魅力向上や活性化とともに、地域と連携した社会貢献活動等が期待されます。また、チーム・選手が活躍することで、市民に夢や感動を与え、まち全体のスポーツ気運の醸成につなげていくことが期待されます。

⑦ 学校、教育施設等

就学前の子どもの外遊びや児童・生徒の日常的な運動やスポーツの機会を提供し、子どもの体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通してスポーツに親しむきっかけづくりが期待されます。

高等学校、大学においては、スポーツを通じた地域でのボランティアの機会の提供や学内の体育・スポーツ施設の開放など、地域に開かれた学校運営が期待されます。

⑧ 町内会・自治会、商店会等

市内各地域の特徴をふまえ、工夫をこらした、地域の住民が気軽に参加できるスポーツ大会やイベントの開催が期待されます。また、スポーツを通して地域住民のコミュニケーションを促進することで、地域のにぎわいづくりが期待されます。

⑨ 民間事業者

多様な市民のニーズを捉え、日常的にスポーツに親しむことのできる場や機会を提供することが期待されます。また、専門的なノウハウを活かし充実したサービスを提供していくことも期待されます。

⑩ 市民・ボランティア団体

市民の誰もが身近な地域で、自分にあった形で定期的・継続的にスポーツに親しむとともに、スポーツを通じて人と人、地域と地域の交流が生まれ、日々の生活が健康で活力に満ちたものになることが期待されます。

基本目標 01

スポーツへの参加機会の充実

市民の誰もが、いつでも、どこでもスポーツに参加できるよう、生活状況等に応じて多様なアプローチから施策を推進します。

スポーツに親しむきっかけを充実し、健康の保持・増進だけでなく、地域の中で多様な交流の場や機会を生み出していきます。

基本施策（１）子どものスポーツ推進

家庭、地域、学校等が連携・協働し、スポーツを好きになり、楽しむきっかけをつくとともに、体力・運動能力の向上に取り組みます。また、子どもにスポーツの楽しさや魅力を伝えていくとともに、保護者に向けてもスポーツ情報を発信し、スポーツの参加機会を充実していきます。

推進施策

- ・身体を動かすことに興味を持つきっかけづくり
- ・保護者へのスポーツ啓発
- ・子どもたちがスポーツを楽しめる場所の情報提供

主な事業	取組内容
「まちとも」の連携促進	スポーツ推進委員や地域スポーツクラブが「まちとも」で子どもたちにスポーツの楽しさを伝えます。
市内 10 地区のスポーツマップの作成・活用	地域のスポーツが楽しめる場所やスポーツ情報がまとめられた地図を作成し、市内の全小学生に配布します。

基本施策（２）働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進

個々の状況に応じて健康の保持・増進など、スポーツを実施するきっかけづくりに取り組みます。また、従業員の健康管理や健康づくりに配慮した「健康経営」に取り組む企業と連携し、働き方や子どもの成長に伴う生活の変化に応じていつでも、どこでもスポーツを楽しむことができる環境の整備に取り組みます。

推進施策

- ・事業所によるスポーツの取組の推進
- ・日常生活や子育て中のスポーツ啓発（意識して身体を動かすこと）

主な事業	取組内容
企業単位で行えるスポーツ情報、出前講座の提供	商工会議所を通じ、市内企業を対象として健康経営の必要性を啓発し、事業所によるスポーツ推進の取組みを支援します。
子どもの健診時のスポーツ啓発	母子健康手帳交付時に、子育て中でも日常生活の中で行えるスポーツについて情報提供します。

基本施策（3）高齢者のスポーツ推進

予防医療や健康づくり、いきがいにつながるスポーツを推進していくとともに、スポーツを通じた地域の仲間づくりや子・孫等との多世代交流の機会をつくります。また、スポーツの魅力を発信し、「する」だけでなく、「みる」「支える」スポーツについても、興味関心を喚起する取組を充実していきます。

推進施策	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じた地域参加のきっかけづくりと世代間交流の促進 ・自主的に活動するグループへの新たな取組みの働きかけ 	

主な事業	取組内容
小中学校と高齢者施設のスポーツ交流促進	高齢者施設と近隣小中学校をマッチングし、入居者を小中学校の運動会・体育祭に招待し、地域交流を図ります。
高齢者へのニュースポーツ啓発	スポーツ推進委員がニュースポーツを高齢者に普及し、スポーツの面白さ、楽しさを伝えます。

基本施策（4）障がい者のスポーツ推進

障がいの有無に関わらずいつでも、どこでもスポーツを楽しむことができる環境を整備するとともに、魅力を発信し、障がい者スポーツの観戦・実施にむけた興味関心を喚起する取組を充実していきます。パラリンピックの開催等を契機として共生社会の実現を目指し、障がい者スポーツの普及啓発に取り組むとともに、障がいのある市民のスポーツ実施率向上にむけたニーズ等の把握に努めていきます。

推進施策	
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者のスポーツ参加機会の提供 ・パラリンピック開催を契機とした障がい者スポーツの理解促進 	

主な事業	取組内容
スポーツ・レクリエーション教室等の開催	障がい者スポーツ大会や障がい者（児）スポーツ教室を開催し、スポーツを楽しめる環境を整えます。
小学生を対象とした障がい者スポーツ体験教室開催	市内の小中学校で、障がい者スポーツの体験教室キャラバンを行います。
大規模大会開催による障がい者スポーツの普及啓発	大規模な障がい者スポーツ大会を開催し、一流選手のプレーを間近で観戦できる環境を整えます。

基本目標 02

スポーツに関わる 人材と組織の充実

市民の誰もが身近な場所でスポーツを楽しむきっかけをつくる人材と組織を支援します。

スポーツ関係団体をはじめ、町内会・自治会等とも組織間の情報共有や協働の取組を推進し、スポーツを支える人材と組織を充実させる取組を推進します。

基本施策 (1) スポーツを支える人材の育成

競技面での指導力の向上に限らず、ボランティアへの参加促進や障がい者スポーツへの理解促進といった普及啓発の取組等を通して、スポーツを「支える」人材を育成していきます。

人材育成にあたっては、町田市近隣に位置する大学等の教育機関、市内の民間事業者、スポーツ関係団体のほか、町内会・自治会等とも連携し、地域に根差したスポーツ活動を支援していきます。

推進施策

- ・大学連携を推進し、学生が地域で活動できる環境を整える
- ・スポーツ推進委員と地域との連携強化
- ・スポーツボランティアの活躍推進

主な事業	取組内容
大学・企業連携によるスポーツを支える人材の派遣	大学・企業連携により、子どもの遊びやスポーツ指導等、学生や民間企業が地域で活動する環境を整えます。
スポーツ推進委員を地域に均等に配置	スポーツ推進委員が地域と連携し活動できるよう、市内 10 地区に均等に配置します。
まちだサポーターズの活動活発化	まちだサポーターズが活躍できる環境を整え、活動参加者数を増やします。

基本施策（2）スポーツを支える団体の支援・育成

スポーツ関係団体だけでなく、町内会・自治会、障がい者団体といった、主たる活動目的がスポーツではない団体との連携に取り組むとともに、団体間の情報共有、連携・協働の機会をつくり「スポーツで人とまちが一つになる」という将来の姿の実現を目指します。

推進施策

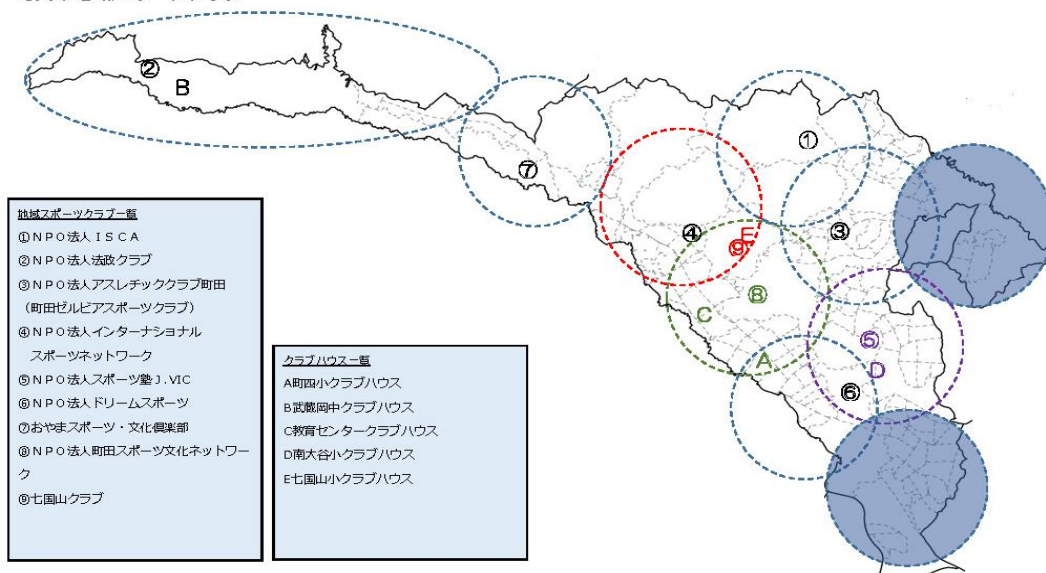
- ・スポーツを支える団体と市によるスポーツ推進のビジョンの共有
- ・スポーツを支える団体間の連携促進

主な事業	取組内容
地域スポーツクラブまちだモデルの確立	地域と連携した活動を行う地域スポーツクラブを「まちだモデル」として活動を支援し、地域スポーツクラブのまちだモデルを定着させます。
まちだサポーターズの組織化	スポーツ祭東京 2013 を契機としたスポーツボランティアを組織化し、スポーツイベントの運営に欠かせない存在に育成します。
町田市体育協会との連携強化	町田市体育協会主催イベントを市民に広報し、体育協会の活動にかかわる市民を増やします。

コラム 地域スポーツクラブ

地域スポーツクラブとは、幅広い世代の方々が、地域の日常的なスポーツ活動や文化活動の場として地域の方自らが主体となり運営するスポーツクラブのことです。町田市では 2018 年 10 月時点で 9 つの地域スポーツクラブが活動しています。

町田市地域スポーツクラブ



基本目標 03

スポーツ環境の充実

市民が生活に身近な場所でスポーツに親しむことができるよう、「する」と「みる」視点からスポーツ環境の充実に取り組んでいきます。「する」「みる」視点で市民の行動の変化を生み出すとともに、行動を継続したくなる環境の整備にも取り組みます。

基本施策 (1) 「する」スポーツ環境の充実

スポーツを実施できていない市民に対して、生活等の状況に応じて行動や意識を変える取組を行うとともに、公園等の公共施設の活用やスポーツ広場等の既存の施設をより一層市民の誰もが利用しやすい環境として整備していくことで、地域のスポーツ環境を充実していきます。また、学校等と連携・協働し、子どもが安全かつ安心してスポーツを行うことができる場や機会を拡充していきます。

スポーツ関係団体のほか市内の学校等、民間事業者、町内会・自治会等との連携を拡大し、市民のスポーツ実施にむけ、多様なアプローチに取り組んでいきます。

推進施策

- ・市民の身近なスポーツをする場の拡充
※子どもにとっての放課後の「学校」や身近な公園など、スポーツ施設に分類されない「場」を含む。

主な事業	取組内容
「まちとも」の充実・拡大	「まちとも」を子どもたちにとって最も身近なスポーツの場として位置づけ、充実させていきます。
大学・企業連携によるスポーツ施設の市民利用拡大	大学・企業連携により、各団体が所有するスポーツ施設を市民が利用できるようにします。
スポーツ広場・学校跡地の位置づけの明確化	大規模なスポーツ広場は公のスポーツ施設として整備し、その他の施設は市民利用を拡大します。

基本施策（2）「みる」スポーツ環境の充実

ホームタウンチームや市内のスポーツ関係団体と協働してスポーツを直接観戦する楽しさを伝えるとともに、ホームタウンチームの試合をはじめとした市民が「みる」スポーツを楽しめる場づくりに取り組みます。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会におけるパブリックビューイングなど、「みる」スポーツをきっかけとして人が集まり交流する機会をつくることで、地域のにぎわいづくりにも取り組んでいきます。

推進施策

- ・市民の賑わいの創出に繋がる施設整備
- ・ホームタウンチームが活動しやすい施設整備
- ・スポーツ観戦によるオール町田の一体感の創出

主な事業	取組内容
陸上競技場観客席増席による賑わいの創出	陸上競技場を15,000人収容のスタジアムに改修し、競技場の活用の幅を広げ、市民の賑わいを創出します。
総合体育館大型映像装置整備による臨場感・一体感の創出	総合体育館に大型映像装置を整備し、スポーツの観戦環境の充実を図ります。
ホームタウンチームのホームゲーム開催周知連携強化	ホームタウンチームと連携し、市民の観戦招待を充実させていきます。
パブリックビューイングの実施	町田ゆかりのアスリートが国際大会や全国大会に出場する際にパブリックビューイングを実施し、オール町田の一体感を創出します。

基本目標 04

スポーツを通じたまちづくり

スポーツの魅力を活用して地域の活性化、まちの魅力向上に取り組みます。ターゲットを明確化し、市民に適格にスポーツ情報を提供していくとともに、市内外にスポーツイベント等の情報を発信し、まちの魅力としてPRしていきます。

基本施策（１）スポーツ情報の発信

スポーツに親しむ機会や場所についての情報を、市民の生活等の状況に応じて適切な方法を工夫して、提供していきます。また、町内会・自治会等とも連携し、スポーツになじみの薄い人へ対してスポーツの魅力を伝えていきます。

スポーツ施設周辺の地域に対しては、イベント等の情報発信を強化し、スポーツ施設を拠点とした地域のにぎわい創出にも取り組みます。

推進施策

- ・ターゲットに合わせた効果的な情報発信
- ・スポーツになじみの薄い市民に対する積極的な情報発信

主な事業	取組内容
（再掲）市内 10 地区のスポーツマップの作成・活用	地域のスポーツが楽しめる場所やスポーツ情報がまとめられた地図を作成し、市内の全小学生に配布します。
スポーツ以外の既存情報発信との連携	スポーツが主たる目的ではない団体と連携し、それらの団体のもつ情報発信ツールを活用することで、今までスポーツ情報が行き届かなかった層に対してスポーツ情報を効果的に届けます。

基本施策（2）スポーツを通じたシティプロモーション

スポーツ施設におけるにぎわい創出に取り組むとともに大会・イベント等をまちの魅力として市内外にPRしていきます。ホームタウンチームや市内のスポーツ関係団体、学校、民間事業者等と連携・協働し、スポーツに関心を持つ市民を増やしていくことで、シティプロモーションのコンテンツとしてスポーツを位置づけていきます。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会を通じたスポーツの気運やレガシーを継承し、まちの魅力向上に活かしていきます。

推進施策

- ・市民全体のスポーツ気運の醸成
- ・市外居住者のスポーツを通じた来訪の促進
- ・国際大会事前キャンプ招致を通じた国際交流

主な事業	取組内容
関係団体と連携したイベント開催体制の強化	スポーツ団体、ボランティア組織、観光関係団体等が連携し、スポーツイベント開催時に必要な調整や手続きに係る事務をパッケージ化して、イベント開催を円滑に進めます。
ホームタウンチームと連携したスポーツ施設・まちなか装飾	野津田公園・総合体育館および町田駅・鶴川駅・成瀬駅周辺をホームタウンチームのチームカラーに染め上げます。
ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会事前キャンプ開催	ラグビーワールドカップ2019公認キャンプ地、また、東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地として、招致国との交流を推進します。

第4章

計画の推進にあたって

計画の推進にあたって

1 . 計画の推進と進行管理

本計画に掲げる施策は、第3章で示した数値目標等を元に進行管理を行っていきます。計画の中間年で状況に応じて見直しに取り組みます。

施策の進行管理にあたっては、計画 (PLAN)、実行 (DO)、評価 (CHECK)、改善 (ACTION) のサイクルにより適切に行っていきます。また、庁内の関係各課と連携・協働をはかるとともに、市長の附属機関である町田市スポーツ推進審議会へ報告するなど、適切な進行管理に努めます。アクションプランについては、管理表をもとに進捗管理していきます。



2 . 計画推進のための財源の確保

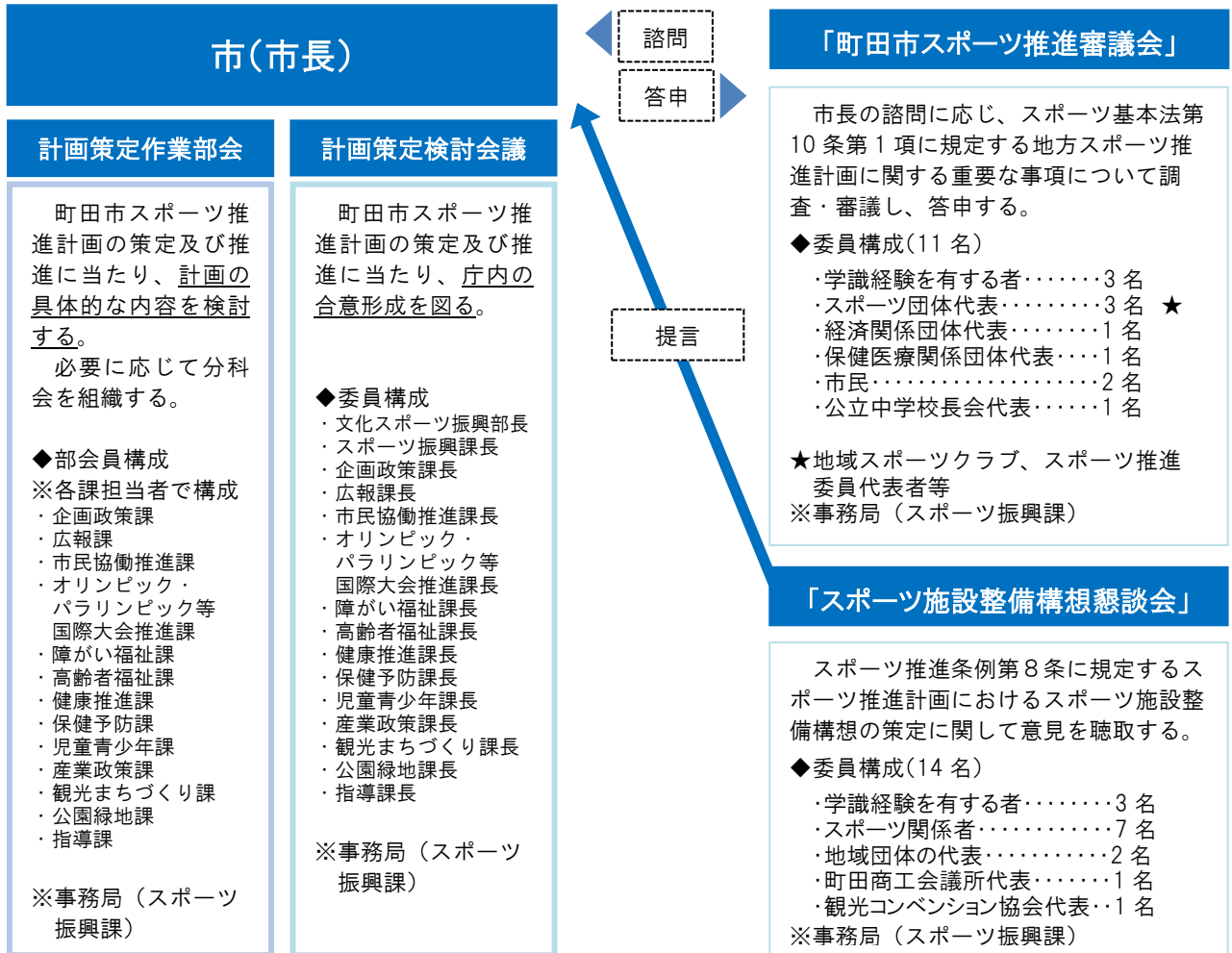
本計画の推進に当たっては、厳しい財政状況等を考慮しつつ、国・都の補助金やスポーツ振興くじ助成金等を活用し、財源の確保に努めます。

また、ネーミングライツやふるさと納税の活用等、新たな財源の確保にも積極的に取り組みます。

資料編

資料編

1. 町田市スポーツ推進計画の策定体制



市民アンケート調査

町田市スポーツ推進計画の達成状況や進捗状況をはかるための指標として活用するために実施
実施時期：①2018年10月
②③2019年1月～2月頃
対 象：①市内在住で18歳以上の方3,000名
②市内の公立小学校に通う5年生
③市内の公立中学校に通う2年生

パブリックコメント

町田市スポーツ推進計画の策定にあたり、意見を募集し、参考とするために実施
実施時期：2019年1月～2019年2月頃
対 象：市内在住

「(仮称)町田市スポーツ推進計画 19-28」

2. 町田市スポーツ推進審議会委員名簿

	区 分	氏 名	所 属
1	学識経験者	川崎 登志喜	玉川大学教育学部教授
2		宮崎 光次	桜美林大学健康福祉学群教授
3		永吉 英記	国土舘大学体育学部准教授
4	スポーツ団体	山本 正実	町田市体育協会理事長
5		市川 健一※ ¹	東京都障害者スポーツ協会副会長
6		守屋 実※ ¹	NPO 法人アスレチッククラブ町田代表理事
7		岡田 栄※ ²	町田市スポーツ推進委員
8		水野 洋子※ ²	NPO 法人スポーツ塾 J. V I C 代表
9	経済関係団体	佐藤 正志	町田商工会議所専務理事
10	保健医療関係団体	柴田 智	社会福祉法人悠々会 ケアフルクラブ悠々園施設長
11		北川 達三※ ²	社会福祉法人賛育会 第二清風園施設長
12	市民委員	新宅 雅也※ ¹	
13		菊盛 由利子※ ¹	
14		坂井 早苗※ ²	
15		三村 徹※ ²	
16	町田市 公立中学校長会	大川 武司	南中学校校長

※1：2018年4月まで

※2：2018年5月から

3 . 町田市スポーツ推進計画 策定経過

時 期	内 容
2017年 11月14日	第1回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会 【意見交換】・既存計画の説明 ・町田市のスポーツ施設の現状と課題について
2017年 12月6日	スポーツに関する市民意識調査アンケート 実施
2017年 12月19日	第2回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会 【意見交換】・体育館における見るスポーツの充実について ・プールにおける見るスポーツの充実について
2017年 12月22日	第1回 町田市スポーツ推進審議会 【議事】(1) アンケート調査について (2) 計画の策定にあたって (3) 町田市スポーツ施設整備構想懇談会について
2018年 1月26日	第3回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会 【意見交換】・野球場における見るスポーツの充実について ・陸上競技場における見るスポーツの充実について
2018年 2月22日	第4回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会 【意見交換】・町田市スポーツ施設整備構想提言書(案)について
2018年 3月1日	第2回 町田市スポーツ推進審議会 【議事】(1) 2017年度スポーツ推進計画進捗状況について (2) 町田市スポーツ推進計画5か年の達成見込みについて (3) (仮称)町田市スポーツ推進計画19-28策定の考え方について
2018年 5月30日	第1回 町田市スポーツ推進審議会 【議事】(1) 町田市のスポーツ推進の現状と課題について (2) (仮称)町田市スポーツ推進計画19-28について
2018年 7月4日	第1回町田市スポーツ推進計画策定検討会議 【議事】(1) 「(仮称)町田市スポーツ推進計画19-28」について (2) 計画策定に係る全体スケジュールについて (3) 作業部会について
2018年 7月11日	第1回 作業部会 ・「(仮称)町田市スポーツ推進計画19-28」方針の共有 ・基本目標1「スポーツへの参加機会の充実」における各課の連携
2018年 7月24日	第2回 町田市スポーツ推進審議会 【議事】(1) 「スポーツで人とまちが一つになる」で目指すべき姿・指標について (2) 基本目標1について (3) 基本目標2について
2018年 8月17日	第1回 作業部会 分科会① ・分科会の目的について ・スポーツ振興課(案)について ・町田市のシティプロモーションについて
2018年 8月22日	第1回 作業部会 分科会② ・分科会の目的について ・スポーツ振興課(案)について

2018年 8月27日	第2回町田市スポーツ推進計画作業部会 【議事】 (1) 第1回作業部会後の進捗について (2) 分科会について (3) 基本目標3、基本目標4の取組について
2018年 9月6日	第2回町田市スポーツ推進計画策定検討会議 【議事】 (1) 「(仮称)町田市スポーツ推進計画19-28」について
2018年 9月27日	第3回 町田市スポーツ推進審議会 【議事】 (1) 基本目標3 スポーツ環境の充実について (2) 基本目標4 スポーツを通じたまちづくりについて
2018年 10月12日	スポーツに関する市民意識調査アンケート 実施
2018年 11月8日	第3回町田市スポーツ推進計画策定検討会議 【議事】 (1) 「(仮称)町田市スポーツ推進計画19-28(素案)」について (2) 今後のスケジュールについて
2019年 1～2月	パブリックコメント 実施

4 . 多摩 26 市等との比較

(1) スポーツ推進委員について

多摩 26 市のスポーツ推進委員について、「平成 29 年度 スポーツ推進委員に関する実態調査報告書（平成 30 年 3 月、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部）」を元に（1）市の人口と委嘱数、年間の活動回数、（2）年齢構成、（3）経験年数、（4）選任方法、（5）主たる専門競技（複数回答）、（6）スポーツ推進委員の活動における課題（複数回答）の項目ごとに状況を整理した。

① 市の人口と委嘱数、年間の活動回数

委員数・委員定数と市の人口は八王子市が最も多くなっている。

市の人口に対して最も委員数が多いのは羽村市となっている。一方、市の人口に対して委員数が最も少ない自治体は町田市、次いで八王子市、府中市となっている。

年間の定例会の開催数は多摩 26 市平均 11.7 回となっており、概ねいずれの自治体も同様の回数となっている。

	①人口 (H29.10.1)	①÷②	②スポーツ推進委員委嘱数	③スポーツ推進委員定数	年間の活動	
					定例会	役員会
八王子市	563,228	16,092	35	49	12	12
立川市	182,715	7,613	24	36	12	11
武蔵野市	145,016	6,592	22	32	10	10
三鷹市	186,444	7,769	24	30	12	12
青梅市	135,300	5,412	25	27	12	6
府中市	259,515	12,358	21	25	11	12
昭島市	113,010	6,278	18	18	12	5
調布市	231,904	11,043	21	23	12	15~16
町田市	429,070	28,605	15	15	12	
小金井市	119,984	4,799	25	25	9	
小平市	191,405	9,115	21	25	11	
日野市	184,478	7,687	24	24	12	12
東村山市	150,800	8,378	18	25	12	12
国分寺市	121,569	8,105	15	16	12	12
国立市	75,703	6,882	11	13	11	
福生市	58,459	6,495	9	12	12	
狛江市	81,633	6,803	12	20	12	
東大和市	85,860	5,724	15	15	12	
清瀬市	74,825	6,235	12	12	12	
東久留米市	116,889	5,313	22	25	12	3
武蔵村山市	72,341	5,565	13	14	12	
多摩市	148,815	8,754	17	22	12	12
稲城市	89,802	5,613	16	16	12	
羽村市	56,083	3,116	18	18	11	
あきる野市	81,133	4,507	18	18	12	
西東京市	200,817	10,041	20	20	12	不定期開催

※上位5項目に着色

多摩26市平均	159,877	8,265
町田市	429,070	28,605
多摩26市平均と町田市の差	269,193	20,340
多摩26市平均と町田市の差(割合)	2.68倍	3.46倍

11.7
12
0.3

② 年齢構成

多摩26市の平均と町田市の状況を比較すると、50歳代以下が少なくなっている。70歳以上では男女ともに多くなっている。

年齢構成	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
多摩26市小計	0	1	8	6	22	4	55	45	77	81	102	59	23	8
多摩26市平均	0.0	0.0	0.3	0.2	0.8	0.2	2.1	1.7	3.0	3.1	3.9	2.3	0.9	0.3
町田市	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	5	2	2	1
多摩26市平均と町田市の差	0.0	-0.0	-0.3	-0.2	-0.8	-0.2	-0.1	-1.7	-2.0	-1.1	1.1	-0.3	1.1	0.7

③ 経験年数

多摩26市の平均と町田市の状況を比較すると、1年以上6年未満の委員が少なく、6年以上10年未満と20年以上の委員が多くなっている。

経験年数	1年未満		1年以上～2年未満		2年以上～4年未満		4年以上～6年未満		6年以上～8年未満		8年以上～10年未満		10年以上～20年未満		20年以上	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
多摩26市小計	23	12	44	22	66	28	37	15	21	26	19	20	58	66	19	15
多摩26市平均	0.9	0.5	1.7	0.8	2.5	1.1	1.4	0.6	0.8	1.0	0.7	0.8	2.2	2.5	0.7	0.6
町田市	1		1		2				1	1	1	2	2	1	2	1
多摩26市平均と町田市の差	0.1	-0.5	-0.7	-0.8	-0.5	-1.1	-1.4	-0.6	0.2	0.0	0.3	1.2	-0.2	-1.5	1.3	0.4

④ 選任方法

町田市は一般公募のみとなっている。

多摩26市の平均をみると「地域推薦」が多くなっている。

選任方法	小計		地域推薦		スポーツ団体推薦		職域団体		一般公募		教育委員会・主管課推薦		その他		
	小計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
多摩26市小計	491	287	204	111	57	25	25	0	0	54	38	52	53	45	31
多摩26市平均	18.9	11.0	7.8	4.3	2.2	1.0	1.0	0.0	0.0	2.1	1.5	2.0	2.0	1.7	1.2
町田市	15	10	5							10	5				
多摩26市平均と町田市の差	-3.9	-1.0	-2.8	-4.3	-2.2	-1.0	-1.0	0.0	0.0	7.9	3.5	-2.0	-2.0	-1.7	-1.2

⑤ 主たる専門競技（複数回答）

多摩26市の平均と町田市の状況を比較すると、町田市は障がい者系の女性委員が多くなっている。一方で、「ニュースポーツ・レクリエーション系」の委員が少なくなっている。

主たる専門競技別（複数回答）	体操系		陸上競技系		武道系		球技系		野活系		水泳系		民謡・ダンス系		ニュースポーツ・レクリエーション系		射撃系		障害者系		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
多摩26市小計	10	22	40	11	21	4	179	127	35	16	21	24	3	9	41	33	1	0	12	21	45	12
多摩26市平均	0.4	0.8	1.5	0.4	0.8	0.2	6.9	4.9	1.3	0.6	0.8	0.9	0.1	0.3	1.6	1.3	0.0	0.0	0.5	0.8	1.7	0.5
町田市	2	2	5		1		7	5	3		6			1	1	1					8	
多摩26市平均と町田市の差	1.6	1.2	3.5	-0.4	0.2	-0.2	0.1	0.1	1.7	-0.6	5.2	-0.9	-0.1	0.7	-0.6	-0.3	-0.0	0.0	-0.5	7.2	-1.7	-0.5

⑥ スポーツ推進委員の活動における課題（複数回答）

「①委員を引き受けてくれる人がいない」「④委員についての地域住民の認知度が低い」はほとんどの自治体（多摩 26 市中 21 市：80.8%）が課題だと認識しており、町田市も同様の状況となっている。

「②委員の活動に必要な財源が不足している」については、半数の自治体（多摩 26 市中 13 市：50.0%）が課題だと認識しており、町田市も同様の状況となっている。

	①委員を引き受けてくれる人がいない	②委員の活動に必要な財源が不足している	③委員資質向上を高める研修機会が十分ではない	④委員についての地域住民の認知度が低い
八王子市	○	○	○	○
立川市	○	○		○
武蔵野市	○		○	○
三鷹市	○			○
青梅市	○			
府中市	○	○		○
昭島市	○	○		○
調布市				○
町田市	○	○		○
小金井市	○			○
小平市	○		○	○
日野市				○
東村山市	○	○	○	○
国分寺市	○	○	○	○
国立市		○	○	○
福生市	○			○
狛江市		○	○	
東大和市	○			
清瀬市	○	○	○	○
東久留米市	○	○		○
武蔵村山市	○		○	
多摩市	○			○
稲城市	○			○
羽村市	○	○	○	
あきる野市	○		○	○
西東京市		○		○
総数	21	13	11	21
割合	80.8%	50.0%	42.3%	80.8%

①～⑥「平成 29 年度 スポーツ推進委員に関する実態調査報告書（平成 30 年 3 月、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部）」より作成

(2) 総合型地域スポーツクラブの状況

① 地域スポーツクラブ設置数

八王子市が20クラブと最も多く、ついで立川市が12クラブ、町田市が6クラブとなっている。

1クラブあたりの人口をみると、立川市が最も少なく、ついで八王子市、あきる野市となっている。

町田市は人口7.1万人に対して1クラブとなっており、多摩26市の平均(10.7万人)と比べて少なくなっている。

	①地域 スポーツ クラブ 設置数	②人口 (H29.10.1)	②÷①
八王子市	20	563,228	28,161
立川市	12	182,715	15,226
武蔵野市	1	145,016	145,016
三鷹市	2	186,444	93,222
青梅市	2	135,300	67,650
府中市	1	259,515	259,515
昭島市	1	113,010	113,010
調布市	1	231,904	231,904
町田市	6	429,070	71,512
小金井市	1	119,984	119,984
小平市	1	191,405	191,405
日野市	1	184,478	184,478
東村山市	2	150,800	75,400
国分寺市	1	121,569	121,569
国立市	0	75,703	
福生市	0	58,459	
狛江市	1	81,633	81,633
東大和市	1	85,860	85,860
清瀬市	1	74,825	74,825
東久留米市	1	116,889	116,889
武蔵村山市	1	72,341	72,341
多摩市	1	148,815	148,815
稲城市	1	89,802	89,802
羽村市	1	56,083	56,083
あきる野市	2	81,133	40,567
西東京市	2	200,817	100,409

※上位3項目に着色 ※下位3項目に着色

多摩26市平均	2.5	107,720
町田市	6	71,512
多摩26市平均と町田市の差	3.5	-36,208

② 地域スポーツクラブへの支援策の内容

町田市が行っており、多くの他市(9割以上の自治体)が行っていない支援策は「補助金、助成金交付(設立関係)」となっている。

「補助金、助成金交付(設立関係)」「人材の紹介・派遣」「人材養成、指導者の資質向上のための研修会」を行っている自治体は2自治体以下(10%以下)となっている。

	1 補助金、 助成金交 付(設立 関係)	2 補助金、 助成金交 付(育成 関係)	3 スポーツ 施設の優 先使用	4 小学校の 優先使用	5 中学校の 優先使用	6 人材の紹 介・派遣	7 人材養 成、指 導者 の資質 向上の ための 研修 会	8 国、都、 広 域スポ ーツセ ンター 等の情 報提 供	9 物品、備 品貸出	10 法律、経 理、申 請 事務等 の指 導・ア ド バイ ス	11 域内での クラブ間 または クラブ と行政 との 連絡 会の 設置	12 支援して いない
八王子市		○		○	○	○		○	○			
立川市		○	○	○	○			○	○			
武蔵野市			○					○				
三鷹市							○	○	○			
青梅市			○					○		○		
府中市			○					○	○			
昭島市			○	○				○				
調布市			○					○	○		○	
町田市	○	○	○					○	○	○		
小金井市	○	○	○					○	○	○	○	
小平市												○
日野市				○				○	○		○	
東村山市												○
国分寺市			○	○	○			○	○	○		
国立市												
福生市												
狛江市			○					○				
東大和市			○									
清瀬市								○				
東久留米市			○									
武蔵村山市		○	○	○	○			○				
多摩市												○
稲城市												
羽村市			○			○		○	○			
あきる野市			○					○	○			
西東京市		○	○		○			○		○		
総数	2	6	16	6	5	2	1	17	11	6	3	3
割合	7.7%	23.1%	61.5%	23.1%	19.2%	7.7%	3.8%	65.4%	42.3%	23.1%	11.5%	11.5%

「平成28年度東京都スポーツ総合調査報告書(平成29年3月、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部)」より作成

(3) スポーツ施設

① スポーツ施設と人口

府中市が70施設と最も多く、ついで八王子市が60施設、多摩市が48施設となっている。
町田市が多摩26市中6番目の35施設となっている。

1施設あたりの人口をみると、福生市が最も少なく、ついで羽村市、あきる野市となっている。
町田市は12,259人に対して1施設となっており、多摩26市の中では、人口に対して施設の数が少なくなっている。

陸上競技場（次ページ（2）にて詳細を整理）は、多摩26市中15市に16施設あり、町田市陸上競技場はそのうちの1施設となっている。

体育館（次ページ（3）にて詳細を整理）は、多摩26市全市に105施設あり、町田市には市立総合体育館とサン町田旭体育館の2施設がある。

1施設あたりの市民の人口

八王子市	563,228	9,387.1
立川市	182,715	4,685.0
武蔵野市	145,016	6,905.5
三鷹市	186,444	13,317.4
青梅市	135,300	4,665.5
府中市	259,515	3,707.4
昭島市	113,010	4,913.5
鶴崎市	231,904	5,656.2
町田市	429,070	12,259.1
小金井市	119,984	8,570.3
小平市	191,405	6,600.2
日野市	184,478	6,149.3
東村山市	150,800	5,585.2
園分寺市	121,569	6,753.8
国立市	75,703	5,407.4
福生市	58,459	1,948.6
狛江市	81,633	4,801.9
東大和市	85,860	5,050.6
清瀬市	74,825	3,563.1
東久留米市	116,889	4,495.7
武蔵村山市	72,341	3,288.2
多摩市	148,815	3,100.3
福城市	89,802	2,721.3
羽村市	56,083	2,336.6
あきる野市	81,133	2,535.4
西東京市	200,817	7,172.0

上位3位に着色
上位(数が少ない)3位に着色

施設数(順位)	合計箇所数	陸上競技場	球技場	多目的運動広場	硬式野球場	軟式野球場	少年野球場	テニス(クレイ)	テニス(砂入り人工芝)	テニス(ハード)	テニス(屋内コート)	ゲートボール場	屋内水泳場	屋外水泳場	体育館	トレーニング場	柔道場	剣道場	武道場	相撲場	弓道場	アーチェリー場	ランニングコース	サイクリングコース	健康体力相談室	アイススケート場	ローリースケート場	射撃場	ゴルフ場	卓球場	その他
2	60	2	5	1	2	5	2	1	10	2	0	1	2	4	12	2	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	4
5	39	1	0	3	1	5	3	2	2	0	0	3	3	0	4	2	1	2	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	
19	21	1	0	3	0	1	0	0	1	0	0	0	2	2	3	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	
24	14	0	2	1	0	2	0	1	1	1	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	29	1	3	0	1	3	2	3	2	1	0	0	7	4	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	70	1	6	2	1	3	3	2	12	1	0	4	1	15	9	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
17	23	1	3	0	1	2	0	2	1	0	0	0	1	3	5	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	41	0	4	2	1	3	3	1	4	0	0	7	1	4	5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
8	35	1	0	7	1	6	0	7	0	0	0	2	0	6	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	14	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
11	29	1	0	5	0	0	0	0	3	1	0	0	1	6	5	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
9	30	1	4	0	0	2	3	1	2	1	0	0	1	3	3	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
14	27	1	0	0	0	2	1	1	1	0	0	6	2	1	2	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
21	18	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3	2	0	6	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	14	0	1	0	0	2	1	0	3	0	0	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9	30	1	1	0	0	3	4	0	2	2	0	0	0	4	5	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
22	17	0	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	2	4	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
22	17	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	4	0	4	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
19	21	0	0	2	0	1	0	1	2	0	0	5	0	3	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
15	26	0	0	3	0	2	0	6	0	0	0	4	1	0	2	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
18	22	1	0	2	0	2	1	2	1	0	0	0	0	2	1	1	1	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	3
3	48	1	4	0	2	3	0	2	6	1	0	0	0	4	0	2	2	0	0	2	0	1	0	15	0	0	0	0	0	1	2
7	33	1	2	7	0	2	0	1	3	1	0	1	0	1	4	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
16	24	1	3	1	0	2	0	0	2	0	0	2	1	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
8	32	0	0	1	1	4	2	2	2	0	0	0	3	4	4	3	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
13	28	0	2	3	0	2	0	1	3	0	0	1	2	0	6	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	762	16	40	49	11	58	25	30	76	11	0	40	35	66	105	41	16	12	13	3	18	0	28	2	4	0	3	1	0	9	49
平均件数	29.3	0.6	1.5	1.9	0.4	2.2	1.0	1.2	2.9	0.4	0.0	1.5	1.3	2.5	4.0	1.6	0.6	0.5	0.5	0.1	0.7	0.0	1.1	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.3	1.9	
町田市	35	1	0	7	1	5	0	7	0	0	0	2	0	5	4	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多摩26市平均との差	5.7	0.4	(1.5)	5.1	0.6	2.8	(1.0)	(1.2)	4.1	(0.4)	0.0	(1.5)	0.7	(2.5)	1.0	2.4	0.4	0.5	(0.5)	(0.1)	0.3	0.0	(1.1)	(0.1)	(0.2)	0.0	(0.1)	(0.0)	0.0	(0.3)	(1.9)

※都立施設は含まない
※なお、町田市内に都立施設はない

「東京都における公立スポーツ施設 平成28年度版(平成28年10月1日現在)(平成29年2月、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部)」より作成

② 陸上競技場について

陸上競技場についてみると、多摩 26 市に 16 の陸上競技場があり、そのうち 9 施設 (56.3%) は直営による管理運営となっている。

最寄駅からのアクセスをみると、バスによるアクセスが約 3 割、徒歩によるアクセスが約 7 割となっている。

町田市を比較してみると、最寄駅からのアクセスがバスである町田市立陸上競技場は、所要時間が平均より 2 分程度長くなっている。

		件数	割合	平均所要時間(分)
陸上競技場	全体	16	-	-
	「直営」による管理運営	9	56.3%	-
	最寄駅からのアクセス			
	バス	5	31.3%	12.8
	徒歩	11	68.8%	12.5
町田市立陸上競技場	(管理運営) スポーツパークパートナーズまちだ		バス	15

③ 体育館について

体育館についてみると、多摩 26 市に 53 の体育館があり、そのうち 15 施設 (28.3%) は直営による管理運営となっている。

最寄駅からのアクセスをみると、バスによるアクセスが約 4 割、徒歩によるアクセスが約 6 割となっている。

町田市を比較してみると、最寄駅からのアクセスが徒歩である町田市立総合体育館は、所要時間が平均より 0.5 分短くなっている。最寄駅からのアクセスがバスであるサン町田旭体育館は、所要時間が平均より 2 分程度が短くなっている。

		件数	割合	平均所要時間(分)
体育館	全体	53	-	-
	「直営」による管理運営	15	28.3%	-
	最寄駅からのアクセス			
	バス	22	41.5%	12.1
	徒歩	31	58.5%	9.5
町田市立総合体育館	(管理運営) スポーツ町田		徒歩	9
サン町田旭体育館	(管理運営) チーム町田(町田中央公園グループ)		バス	10

(2) (3) 「東京都における公立スポーツ施設 平成 28 年度版 (平成 28 年 10 月 1 日現在) (平成 29 年 2 月、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部)」より作成

(4) スポーツ施策と町会・自治会等のかかわり

(事例 1) 青梅市自治会連合会

①概要

青梅市役所内 市民活動推進課 内にある組織。第1支会（青梅市民センター）、第2支会（長淵市民センター）、第3支会（大門市民センター）、第4支会（梅郷市民センター）、第5支会（沢井市民センター）、第6支会（小曾木市民センター）、第7支会（成木市民センター）、第8支会（東青梅市民センター）、第9支会（新町市民センター）、第10支会（河辺市民センター）、第11支会（今井市民センター）の11支会からなり、自治会連合会加入自治会は全158自治会となっている（未加入自治体は12自治会）。

市と「青梅市自治会連合会と青梅市との連携基本協定」を締結しており、青梅市や社会福祉協議会等と協働した活動も行っている。

②市と協働したスポーツに関連する取組

②-1 支会への依頼事項および補助金等

取組・事業	担当課	内容
青梅マラソンボランティア	スポーツ推進課	第1・5・10支会と東青梅4丁目自治会を基本として市から依頼
青梅市地区市民運動会等交付金	スポーツ推進課	5月と9月に交付
スポーツ推進委員選出	スポーツ推進課	各支会からスポーツ推進委員2～3人を推薦してもらっている。任期は1期2年。

②-2 自治会への依頼事項および補助金等一覧

取組・事業	担当課	内容
運動広場管理業務委託	スポーツ推進課	毎年10月と4月に管理業務の実施状況を報告書により報告

②-3 自治会に対する回覧依頼事項（予定）

取組・事業	担当課	内容
スポーツ・レクリエーションフェスティバル開催周知チラシ	スポーツ推進課	回覧（9月）
奥多摩溪谷駅伝競走大会開催に伴う交通規制チラシ	スポーツ推進課	回覧（11月）
青梅マラソン大会に伴う交通規制チラシ	スポーツ推進課	回覧（1月）

「青梅市自治会ハンドブック」より作成

③体育振興の取組

自治会連合会の活動の中に「体育振興」というカテゴリーが整理されており、自治会の活動として「市民運動会」「ソフトボール大会」「ビーチボール大会」がある。各支会の活動は自治会連合会のホームページにて情報が発信されている。

(参考事例) チャレンジデー (笹川スポーツ財団)

年齢・性別を問わず、日常的なスポーツの習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきっかけづくりを目的とした住民総参加型のスポーツイベント。

趣旨	住民の健康づくりやコミュニティづくりなど、スポーツを通じた『明るいまちづくり』のきっかけとなることを期待し、5月の最終水曜日に全国一斉に開催する、住民総参加型のスポーツプログラムがチャレンジデーである。
募集対象	市区町村単位での実施が可能な自治体としている。
実施方法	15分間以上続けて、運動やスポーツをした『住民の参加率(%)』を競い合う。
人口	住民基本台帳登録者数を用いる。
対戦組合せ	人口規模により分けられたカテゴリー内で対戦する。対戦組合せは抽選で決定(抽選は笹川スポーツ財団で実施)。双方の合意により特定の自治体等と対戦を希望する場合はその要望を優先する。
エール交換	対戦相手が決定したら実行委員会代表(市区町村長)によるエールの交換を行う(文書、電話(テレビ電話)、ビデオ等)。
旗の交換	お互いのまちの旗を事前に交換する(チャレンジデー翌日の旗の掲揚セレモニーに使用)。
集計	当日に集計する。
旗の掲揚	対戦に敗れた自治体は翌日から1週間、庁舎のメインポールに相手の自治体の旗を掲揚する。



(5) 多摩・島しょ地域のスポーツ活用型地域活性化の現状

「多摩・島しょ地域におけるスポーツを活用した地域活性化に関する調査研究

～スポーツコミッションの機能に着目して～ 報告書」より引用

①地域でのスポーツへの取組
②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組
③スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）
④行政が捉える地域課題
⑤スポーツを活かした取組

①西多摩地域（青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町）

西多摩地域は、自然環境に恵まれた山間地域を有する地域で、山間地特有の過疎高齢化の進む地域も多い。スポーツ資源の観点からは、多摩川水系の上流部の地域であるため、溪流の環境を利用したカヌー、ラフティング、釣り、山岳環境を利用したハイキング・トレイルラン・マラソン・ヒルクライム・ボルダリングなども盛んであり、観光誘客が推進されている。

西多摩地域の現状

	地域の現状
①地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の健康増進を目的とした取組が盛んな地域である。 ・青梅マラソン大会に代表されるマラソン等のイベントがある。 ・山岳環境を活かしたトレイルランやヒルクライムなども盛んである。 ・多摩川を活用したカヌー、釣り、ラフティング、バーベキューなどスポーツ・レクリエーション、レジャーが盛んである。
②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップに取り組んでいる自治体はない。 ・<u>2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組は多く、キャンプ地として、青梅市・羽村市・日の出町、さらにあきる野市も誘致を検討している。</u>また、羽村市は文化プログラムについて取組を進めている。
③スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン、カヌー、バレーボール、少年野球、ソフトボールなどが盛んな地域である。 ・ソフトボールの強豪チームがある。 ・カヌー、サッカー、バレーボール、チェアスキー、ゴールボール、ソフトテニス等のアスリートを輩出している。 ・青梅市御岳交流センター（カヌー競技会場）、福生野球場、福生市中央体育館、福生市営プール（50m）、羽村市スポーツセンター、都立秋留台公園、あきる野市民球場、谷戸沢サッカー場、亜細亜大学テニス競技施設等のスポーツ施設がある。 ・山間地域の大部分が、秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、東京都・埼玉県・山梨県の境界にある雲取山は、東京都の最高峰として、日本百名山に選ばれている。登山コースは、山梨県丹波山村からのコース、東京都奥多摩町からのコース、埼玉県秩父市からのコース、縦走コースなど様々なコースで登ることができる。奥多摩三山といわれる三頭山、御前山、大岳山は多くの登山コースがあつて人気の山である。三山をつなぐ縦走路もある。御岳山は、古くから山岳信仰の対象として親しまれ、山上には武蔵御嶽神社が祭られている。観光地としては、ロックガーデンをはじめ、日の出山からのハイキングコースも充実している。 ・多摩川の上流にあたる西多摩地域には、御岳溪谷、鳩ノ巣溪谷、秋川溪

	<p>谷があり、カヌー、ラフティング、釣りやバーベキューをはじめとしたレジャー、スポーツが盛んである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山岳、森林系ではトレイルラン、ヒルクライムのコース、河川系では多摩川でのカヌー、釣り、ラフティング、道路を活用した青梅マラソン大会などマラソン、駅伝などが実施されている。
④行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政が捉える地域課題では、障がいなどへの理解、コミュニティの希薄化・崩壊、地域のイメージアップ・認知度の向上、地域のインフラ整備、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出を挙げる自治体が多い。 地域のイメージアップ・知名度の向上、コミュニティの希薄化・崩壊、障がいなどへの理解をまちづくり課題として挙げる自治体が他地域に比べ多い。
⑤スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進が多く、<u>今後の取組として、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進を挙げる自治体が多い。</u> 広域的なスポーツへの取組に実績がある。

②南多摩地域（八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市）

南多摩地域は、八王子市・町田市などの大都市が含まれる地域でありながら、自然環境にも恵まれており、駅伝、トレイルラン、ロードレースが盛んな地域である。また、トップアスリートチームの活動拠点、ホームタウンともなっている。2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地としての取組も盛んな地域である。

南多摩地域の現状

	地域の現状
①地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 全関東八王子夢街道駅伝競走大会、TOKYO八峰マウンテントレイル、多摩ロードレース大会などのロードレースイベントが盛んな地域である。 ロープジャンプ小学生大会など特色を持ったものもある。 東京ヴェルディ、FC 町田ゼルビア、ASV ペスカドーラ町田などトップアスリートチームの活動拠点として、ファンサービスなどの取組も盛んである。
②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 2019年ラグビーワールドカップへのキャンプ地として町田市、さらに八王子市も誘致を検討している。 <u>2020年東京オリンピック・パラリンピックへのキャンプ地として、八王子市・多摩市が誘致に取り組んでいる。</u>また、日野市は文化プログラムについて取組を進めている。
③スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> ネオテニス（八王子市発祥のニュースポーツ）、陸上競技、サッカー、フットサル、ラグビー、ロープジャンプ、自転車ロードレースなどが盛んな地域である。 FC 町田ゼルビア、ASV ペスカドーラ町田、キャノンイーグルス、コニカミノルタ陸上競技部、国士舘大学体育学部、日野高校野球部、多摩大学附属聖ヶ丘高校ダンスドリル部、若葉総合高校ソフトボール部男子とプロのアスリートチームから高校のクラブチームまで様々なチームがある。 柔道、サッカー、マラソン、マラソン、ボクシング、車いすマラソン、新体操、シンクロナイズドスイミング、相撲等のアスリートを輩出している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・エスフォルタアリーナ八王子、上柚木公園陸上競技場、町田市立陸上競技場、町田市立総合体育館、町田市立室内プール、日野市市民の森ふれあいホール、多摩市立陸上競技場、多摩市立武道館、稲城市総合グラウンド、稲城中央公園野球場、稲城市総合体育館等のスポーツ施設がある。 ・明治の森高尾国定公園、高尾陣場自然公園、多摩丘陵自然公園があり、山岳・森林系ではトレイルランのコース、河川系では浅川でのロードレース、サイクリング、道路を活用したマラソン、自転車ロードレースが実施されている。特色のあるものとしては、八王子市のフォトログイニングなどがある。 ・67の大学キャンパスが立地する特異な地域である。
④行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、コミュニティの希薄化・崩壊、個性ある地域づくり（地域アイデンティティ醸成）、地域のイメージアップ・認知度の向上、地域間交流・国際交流の推進、地域を支える人材の不足／まちづくり組織の不在、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出に分散している。
⑤スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進とするものが全自治体で、他にも、障がいへの正しい理解の普及、地域コミュニティの形成（再生）、地域アイデンティティの醸成、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進、スポーツボランティア活動を通じた人材育成・まちづくり組織の育成などがある。今後の取組として、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進を挙げる自治体が多い。 ・課題として最も多くの自治体が挙げた「地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出」は取組としては少ない。

③北多摩西部地域（立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市）

北多摩西部地域は、マラソン、駅伝などロードレースイベントが盛んな地域である。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致に積極的な自治体も多い地域である。

北多摩西部地域の現状

	地域の現状
①地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・立川シティハーフマラソン、LINK くにたち（マラソン）、多摩湖駅伝大会、東大和市ロードレース大会などロードレースイベントが盛んな地域である。 ・武蔵村山市少年・古希野球チーム親善大会、昭島市チャレンジデーなど特色を持ったものもある。 ・東京ヴェルディなどトップアスリートチームの活動拠点がある。
②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップに取り組んでいる自治体はない。 ・<u>2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組は多く、キャンプ地として、立川市、さらに昭島市、東大和市が誘致を検討している。</u>また、国分寺市、東大和市では文化プログラムについて取組を進めている。
③スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテニス（立川市発祥）、クリケット、ハンドボールなどが盛んな地域である。 ・青梅信用金庫（軟式野球）、スリーボンンドファインケミカル（軟式野球）、武蔵村山市ハンドボールクラブ、武蔵村山市第五中学校（ハンドボール）などのチームがある。

	<ul style="list-style-type: none"> 卓球、カヌー、マラソン等のアスリートを輩出している。 立川公園野球場、立川公園陸上競技場、昭和の森テニスコート、クライミングウォール（昭島）、国分寺市市民スポーツセンター、国分寺市市民ひかりスポーツセンター、国分寺市民室内プール、東大和市ロンドみんなの体育館、東大和市ロンドテニススクエア、東大和市ロンド上仲原野球場、武蔵村山市総合体育館等のスポーツ施設がある。 山岳・森林系ではクロスカントリー、ウォーキングのコース、道路を活用したマラソン、リレーマラソンなどが実施されている。
④行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政が捉える地域課題では、個性ある地域づくり（地域アイデンティティ醸成）、地域のイメージアップ・認知度の向上、地域を支える人材の不足／まちづくり組織の不在、地域のインフラ整備、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出を挙げる自治体が多い。
⑤スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、障がいへの正しい理解の普及、地域コミュニティの形成（再生）、地域のPR・情報発信がある。今後の取組として、住民の健康増進、障がいへの正しい理解、地域アイデンティティの醸成、地域のPR・情報発信を挙げる自治体が多い。

④北多摩南部地域（武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市）

北多摩南部地域では、キャンプ誘致などの取組が盛んである。開催施設となる味の素スタジアムを拠点にプロチームやトップアスリートチームが多数活躍している。

北多摩南部地域の現状

	地域の現状
①地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 三鷹市民駅伝大会、みたかスポーツフェスティバル、ボールふれあいフェスタ、小金井市子ども市民向けスポーツイベントが盛んな地域である。 東芝ブレイブルーパス・サントリーサンゴリアス、FC 東京などトップアスリートチームの活動拠点として、ファンサービスなどの取組も盛んである。
②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 2019年ラグビーワールドカップについては開催地である調布市があり、他地域と比べ取組が盛んである。キャンプ地として武蔵野市、府中市が取組を進めている。また、調布市・狛江市では文化プログラムの取組を進めている。 2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地として、武蔵野市、府中市、さらに、三鷹市も誘致を検討している。また、三鷹市、調布市、狛江市では文化プログラムについて取組を進めている。地域内には会場となっている味の素スタジアムが立地し、武蔵野の森総合スポーツ施設も整備が進められている。
③スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> ラグビー、サッカー、スケートボード、ドッチビー、ビーチボールなどが盛んな地域である。 FC東京、東京武蔵野シティFC、府中なでしこ（サッカー）、LIXIL ディアーズ（アメフト）、横河武蔵野アトラスターズ（ラグビー）、日本郵政グループ陸上競技部、狛江セブン（バレーボール）、府中ハンドボールクラブ、亜細亜大学野球部、拓殖大学陸上部、武蔵野東中学校陸上競技部 武蔵野中学校バトン部、狛江第四中学校野球部、武蔵府中リトルリーグ（野球）とプロチームから少年スポーツまで様々なチームがある。

	<ul style="list-style-type: none"> サッカー、バスケットボール、バレーボール、野球、卓球、競泳、陸上、シンクロナイズドスイミング、トライアスロン、セパタクロー、ボクシング、ポッチャ等のアスリートを輩出している。 味の素スタジアム、武蔵野総合体育館陸上競技場、武蔵野市ストリートスポーツ広場、武蔵野市総合体育館、三鷹中央防災公園、大沢総合グラウンド、朝日サッカー場、府中市民球場、府中市総合体育館、アミノバイタルフィールド、調布市西競技場、小金井市総合体育館、狛江市総合体育館等のスポーツ施設がある。 河川系では多摩川のウォーキング、野火止用水・玉川上水のウォーキング、駅伝・マラソンなどが実施されている。
④行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政が捉える地域課題では、住民の健康、コミュニティの希薄化・崩壊、地域を支える人材の不足／まちづくり組織の不在、地域のインフラ整備、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出を挙げる自治体が多い。
⑤スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、障がいへの正しい理解の普及、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進に取り組んでいる。今後の取組として、障がいへの正しい理解の普及、地域コミュニティの形成（再生）、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進、 スポーツボランティア活動を通じた人材育成・まちづくり組織の育成を挙げる自治体が多い。

⑤北多摩北部地域（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市）

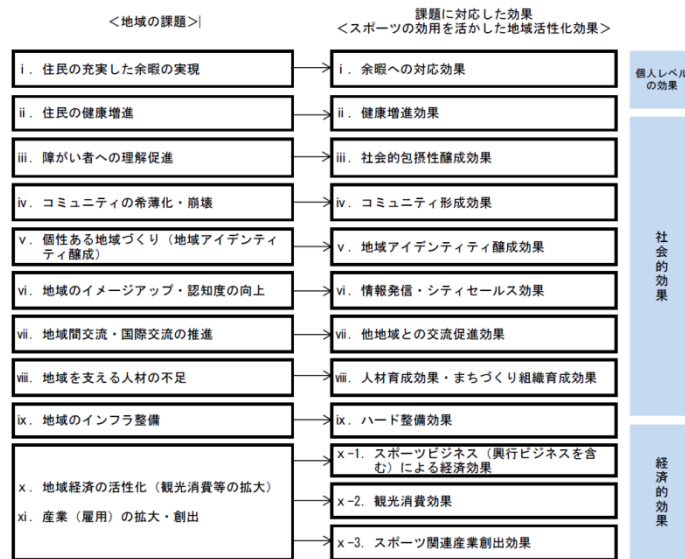
北多摩北部地域は、この地域を構成する5市による多摩六都フェアスポーツ大会など広域行政による取組に特色がある。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックへのキャンプ誘致に積極的な取組の意向を示している。

	地域の現状
①地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市による多摩六都フェアスポーツ大会など広域行政による住民向け取組に特色がある。 FC東京などトップアスリートチームの活動拠点として、ファンサービスなどの取組も盛んである。
②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 2019年ラグビーワールドカップのキャンプ地として西東京市が誘致を検討している。また、東村山市では文化プログラムの取組を進めている。 2020年東京オリンピック・パラリンピックへのキャンプ地として、小平市、さらに、東村山市、清瀬市、西東京市が誘致を検討している。また、東村山市で文化プログラムについて取組を進めている。
③スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> バレーボール、サッカー、女子サッカー、野球、ソフトボール、ミニバスケットボール、ハンドボール、卓球、バドミントンなどが盛んな地域である。 チームケンズ（トライアスロン）、たなしMAXjr.（バドミントン）、東久留米ハンドボールクラブ、東久留米総合高校（サッカー）、東久留米市西中学校ハンドボール部、青葉小学校ミニバスケットボール育成会女子チームなどのチームがある。 サッカー、野球、バレーボール、ハンドボール、バドミントン、アイスホッケー、陸上、空手、体操、トランポリン、トライアスロン、車いす陸上、パラリンピック競泳等のアスリートを輩出している。 小平市民総合体育館、東村山市民スポーツセンター、清瀬内山運動公園

	<p>サッカー場、西東京市総合体育館、西東京市向台運動場、西東京市スポーツセンター等のスポーツ施設がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山岳・森林系ではウォーキング・散策（北山公園、八国山緑地）、河川系では多摩湖サイクリング（自転車道）などが実施されている。
④行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政が捉える地域課題では、住民の健康、地域のイメージアップ・認知度の向上を挙げる自治体がきわめて多く、コミュニティの希薄化・崩壊、地域を支える人材の不足／まちづくり組織の不在、地域のインフラ整備、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出が続いている。
⑤スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、地域コミュニティの形成（再生）がある。今後の取組として、障がいへの正しい理解の普及といった取組を挙げる自治体が多い。 広域行政による取組に実績がある。

(参考)地域課題に対応したスポーツの地域活性化効果

多摩・島しょ地域におけるスポーツを活用した地域活性化に関する調査研究 ～スポーツ
コミッションの機能に着目して～ 報告書



①スポーツが関わる可能性のある地域課題

地域、各自治体は、それぞれ様々な課題を抱えている。ここでは、スポーツが関わる可能性のある地域課題を整理する。

i. 住民の充実した余暇の実現

団塊世代の社会の第一線からのリタイア、労働時間短縮への取組などの普及により、余暇を重視し、趣味やスポーツ、家族団欒、社会貢献などに充実感を覚え、そのような時間を求めるという傾向が高まっている。

ii. 住民の健康増進

本格的な超高齢社会の到来などによる医療費の増加等を背景に、住民の健康への関心の高まりや、行政の住民サービス、福祉・医療費などの視点から、健康増進が重要なテーマとなっている。

iii. 障がい者への理解促進

多くの住民にとって日常生活の中で障がい者と接する機会はさほど多くなく、障がい者に対する理解が十分に浸透しているとは言えない状況にある。こうした状況においては、意識啓発や情報発信、関連する講座やイベントの開催などの取組を通じた、住民の障がい者への理解促進が重要と言える。とりわけ、2020年東京パラリンピックは障がい者の国際スポーツイベントとして、障がい者スポーツに対する気運醸成や情報発信に大きな意味を持っており、障がい者への理解を深めるため、これらを契機として積極的に取り組むことが必要である。

iv. コミュニティの希薄化・崩壊

都市部における都市化の進展、中心市街地における人口の空洞化、近郊住宅地における新旧住民の対立、中山間地域における過疎高齢化の進展など、地域・自治体により背景は様々であるが、地域の絆、住民間のコミュニケーションの希薄化、コミュニティの崩壊が様々な形で進展している。

v. 個性ある地域づくり(地域アイデンティティ醸成)

効率的な行政経営などの観点から市町村合併が進んだことから、自治体の個性も曖昧になりつつある。一方、人口減少、右肩上がりの経済成長の終焉などを背景に、地域間競争が進展しており、個性ある地域づくり、地域アイデンティティの醸成が求められている。

vi. 地域のイメージアップ・認知度の向上

前述のvに関連し、個性的で魅力ある地域であるというイメージを、対外的に長期的、継続的に告知し、定着させていくことが求められている。その発信のために、インターネットや観光パンフレットの配布などと併せ、様々なイベントなどを活用することも求められている。

vii. 地域間交流・国際交流の推進

姉妹都市などの地域間交流や国際交流は、自らの生活や地域社会・文化の再構築、豊かな感性・幅広い視野を持った人材育成、さらには地域の産業・経済の活性化など地域の活力につながる。これには、各種イベントや交換留学などを通じた交流も求められる。

viii. 地域を支える人材の不足

自治体の財政規模の縮小を背景に、住民参加、住民によるまちづくりなど、地域の活性化に対する住民の役割は高まっている。様々な地域の活動や組織を支える人材の確保、育成が重要なテーマとなっている。

ix. 地域のインフラ整備

地方部においては、道路、公共施設などの基盤整備が未だ充足されていないといった課題がある。加えて、経年変化によるインフラ施設の老朽化などから、再整備を必要とするものも多い。

x. 地域経済の活性化(観光消費等の拡大)

地方の経済を支えてきた農林漁業の縮小や、戦後の日本経済をけん引してきた電子・機械などの製造業（ハイテク産業）における、人件費が安価な海外への流出などを背景に、地方を支える経済基盤が見えなくなっている。平成 26 年には「まち・ひと・しごと創生法（地方創生法）」が施行され、地方経済を支える重要な産業基盤の 1 つとして、ビジットジャパン（インバウンド）を背景とした観光産業に強い期待が集まっている。

また、日本経済再生本部では、日本再興戦略 2016 において、2025 年にスポーツ関連産業を 15 兆円へ拡大という目標を掲げ、スポーツ関連産業の育成を推進している。

xi. 産業(雇用)の拡大・創出

地方の人口減少は、単に少子高齢化・出生率低下に伴うものだけでなく、地方における特に若者や子育て世代の雇用を担う産業が不足していることが大きな要因になっている。こうしたことから、地方で成り立つ産業の育成が大きな課題となっている。

(6) 近隣自治体のスポーツ実施率

	自治体名	スポーツ実施率	調査時期	出典
1	八王子市	29.9%	2012	八王子市スポーツ推進計画
2	相模原市	53.7%	2018	相模原市総合計画の進行管理等に係る市民アンケート調査
3	藤沢市	61.3%	2013	藤沢市スポーツ推進計画 みらいふじさわスポーツ元気プラン
4	横須賀市	48.4%	2016	横須賀市スポーツ推進計画 2018年度～2025年度
5	松本市	39.6%	2015	松本市スポーツ推進計画

5 . 町田市スポーツ推進条例

平成25年3月29日

条例第6号

文化スポーツ振興部スポーツ振興課

前文

今日、スポーツの持つ役割は、体力向上や健康の保持増進、青少年の健全育成といった役割から、生活習慣病の予防やストレスの防止、地域社会の活性化、スポーツを通じた都市環境の整備、地域経済への貢献など社会的役割へ拡大している。

こうした状況の下、市民一人ひとりがスポーツの果たす役割の重要性について理解を深めるとともに、スポーツをする、見る、そして支えるというそれぞれの場面において様々な事業を行い、誰もが気軽にスポーツに親しむことができる環境を整え、豊かなスポーツ文化を育むことが重要である。

ここに町田市は、スポーツに関する基本理念を明らかにするとともにその方向を示し、市民の理解と参加の下で、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、この条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、スポーツに関する基本理念を定め、町田市（以下「市」という。）の責務並びに市民等、ホームタウンチーム及びスポーツ関連団体の役割を明らかにするとともに、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって市民等の健康の保持及び増進、明るく豊かな市民生活の形成並びに活力ある市の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) スポーツ関連活動 スポーツをすること、若しくは見ること、又はこれらを支援することをいう。
- (2) スポーツ施設 一般の利用に供することを目的として設置された体育館、運動場その他のスポーツ関連活動を行うための施設（設備を含む。）をいう。
- (3) 市民等 市内に在住し、在学し、在勤し、若しくは滞在する者又は市が推進するスポーツに関する施策に賛同し、協力する個人をいう。
- (4) ホームタウンチーム 市内を本拠としてスポーツ関連活動を行う法人その他の団体のうち特定のスポーツ競技において国内における最高水準の組織に所属し、又は所属することが見込まれるものであって、市長の承認を受けたものをいう。
- (5) スポーツ関連団体 市内においてスポーツ関連活動を行う法人その他の団体（国及び地方公共団体並びにホームタウンチームを除く。）をいう。

(基本理念)

第3条 スポーツの推進に当たっては、スポーツに親しむことができる環境の整備、スポーツ関連活動により市民等が誇りと愛着をもつことができる魅力ある地域社会の形成が図られなければならない。

2 スポーツの推進に当たっては、スポーツを通じた健康の保持及び増進に関する知識の向上が図られなければならない。

3 スポーツの推進に当たっては、市、市民等、ホームタウンチーム及びスポーツ関連団体がそれぞれの責務又は役割を理解し、相互の信頼の下に連携及び協力が図られなければならない。

(市の責務)

第4条 市は、第1条の目的を達成するため、基本理念にのっとり、市の特性に応じた施策を総合的かつ計画的に推進しなければならない。

2 市は、市民等の健康の保持及び増進のための施策を推進しなければならない。

3 市は、市民等、ホームタウンチーム及びスポーツ関連団体が行うスポーツ関連活動に関する環境を整備しなければならない。

4 市は、市民等、ホームタウンチーム及びスポーツ関連団体が行うスポーツ関連活動に対し、広報活動その他の方法により支援しなければならない。

(市民等の役割)

第5条 市民等は、自らがスポーツ関連活動の担い手であることを理解し、相互に尊重し、自主的な活動を通じて、自らの健康の保持及び増進に努めるとともに、前条の規定により市が行う施策に協力するよう努めるものとする。

(ホームタウンチームの役割)

第6条 ホームタウンチームは、自らの競技活動を通じて市の広報に努めるとともに、地域社会の一員として、自主的なスポーツ関連活動を通じて、第4条の規定により市が行う施策に協力するよう努めるものとする。

(スポーツ関連団体の役割)

第7条 スポーツ関連団体は、地域社会の一員として、自主的なスポーツ関連活動を通じて、第4条の規定により市が行う施策に協力するよう努めるものとする。

(スポーツ推進計画)

第8条 市長は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号。以下「法」という。）第10条第1項の規定に基づき、スポーツに関する施策について、総合的な推進を図るための基本的な計画を定めるものとする。

(スポーツ施設の整備等)

第9条 市長は、スポーツの推進に当たって、スポーツ施設を整備するため、必要な施策を講ずるものとする。

(顕彰)

第10条 市は、スポーツの競技会において優秀な成績を収めた者及びスポーツの推進に寄与した者を顕彰するものとする。

(審議会の設置)

第11条 市は、法第31条に規定するスポーツ推進審議会等として、町田市スポーツ推進審議会を置く。

2 前項の町田市スポーツ推進審議会に関し必要な事項は、条例で別に定める。

(委任)

第12条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。
(町田市スポーツ振興審議会条例の一部改正)
- 2 町田市スポーツ振興審議会条例(平成20年3月町田市条例第21号)の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

町田市スポーツ推進審議会条例

第1条を次のように改める。

(趣旨)

第1条 この条例は、町田市スポーツ推進条例(平成25年3月町田市条例第6号)第11条第2項の規定に基づき、町田市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条第1号中「法」を「スポーツ基本法(平成23年法律第78号。以下「法」という。)」に改める。

町田市スポーツ推進計画

発行日	2019年3月
発行者	町田市
編集	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課 〒194-8520 町田市森野2-2-22 TEL 042-724-4036
表紙デザイン	中垣ゆたか（町田市在住）
刊行物番号	
